

鹿児島大学構内遺跡 郡元団地H-9区

平成7年度学術情報基盤センター（旧情報処理センター）
改修工事に伴う発掘調査

2006年 3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

序

鹿児島大学構内遺跡郡元団地はこれまでの発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代まで続く水田稲作農耕を営む集落であり、現代まで各時期の埋蔵文化財が包蔵されていることがわかってきました。本書は、1995年に実施した郡元団地H-9区、現在の学術情報基盤センターの改修工事に伴う発掘調査の成果報告書です。

この調査では、古墳時代から古代の時期の大きな溝と、そこから水田に水を引くための水路を中心とする遺構が確認されました。南九州では数少ない、水田に関する資料を提供できたものと思います。

なお、当調査室は2005年度で20周年を向かえました。これを機に、当調査室の年報に掲載していた調査報告を、『鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区—鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』に続く、単独の報告書、鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書第2集として発行する運びとなりました。

これからも少しでも迅速に、かつ充実した調査成果を提供できるよう努力していきますので、関係の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成18年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長 新田 栄治

例 言

1. 本報告書は、鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が1995（平成7）年度に鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区で行なった発掘調査成果をまとめたものである。付編として、宮崎大学の藤原宏志教授（1995年当時）によるプラント・オパール分析結果を掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面・写真の担当は以下の通りである。
中村直子・峰山いずみ・鮎川章子・梶尾弘子・竹本浩二・萩原龍一・羽生文彦・原田研二・春成耕一・藤田紀子・山下浩太郎・山之口里香・脇なおこ・渡辺美晴
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。
遺物実測 中村・清永千春・篠原美智子・福永美保子
写真 中村・川島秀義
製図 中村
作表 中村・清永・篠原・福永
執筆 中村
概要訳文 新田栄治・中村
編集 中村
4. 本書掲載の出土の陶磁器について、渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）のご教授をいただいた。
5. 本書で報告している遺物は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、学内にて保管している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は、以下の通りである。
 - ・郡元団地では、国土座標第2座標系(X=-158, 200, Y=-42, 400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig. 3参照)。
- 2 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 3 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。
SK：土坑状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット
- 4 土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 5 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。
調整：調整名称の前の()は、調整方向を表す。(—)；横位方向、(|)；縦位、(\)；左上がりの斜位、(/)；右上がりの斜位、(?)；方向不明、とした。→は、調整の新旧関係を表す。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土：粒子の大きさで、礫(2mm～)・粗砂粒(1～2mm)・砂粒(0.2～1mm)・細砂粒(0.2mm以下)に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上、8：15～20%、7：15%前後、6：10～15%、5：10%前後、4：5～10%未満、3：5%前後、2：1～5%未満、1：1%以下、とした。
- 6 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。

本文目次

1 調査に至る経過	1
2 調査の期間と体制	1
3 遺跡の位置と環境	1
4 調査の経過	4
5 層位	5
6 遺構と遺構出土遺物	8
6.1 5層上面検出遺構	8
6.2 7層上面検出遺構	12
6.3 9層上面検出遺構	13
6.4 11層上面検出遺構	14
6.5 12層上面検出遺構	15
6.6 13層上面検出遺構	17
6.7 14層上面検出遺構	19
7 包含層出土遺物	26
8 まとめ	33
付編 鹿児島大学構内遺跡（郡元および桜ヶ丘） におけるプラント・オパール分析	36

挿図目次

Fig. 1 鹿児島市の位置	1
Fig. 2 鹿児島大学構内遺跡の位置	2
Fig. 3 鹿児島大学構内遺跡郡元団地	3
Fig. 4 表土除去後平面図	4
Fig. 5 西壁層位断面図	6
Fig. 6 南壁層位断面図	7
Fig. 7 5層上面遺構検出状況	8
Fig. 8 5層上面検出遺構図	9
Fig. 9 遺構出土遺物	9
Fig. 10 7層上面遺構検出状況	12
Fig. 11 9層上面遺構検出状況	13
Fig. 12 11層上面検出状況	14
Fig. 13 12層上面検出状況	15
Fig. 14 13層上面検出状況	17
Fig. 15 14層上面検出状況	19
Fig. 16 14層上面検出遺構図	20
Fig. 17 1・3層出土遺物	26
Fig. 18 4層出土遺物	29
Fig. 19 5層～10層出土遺物	32
Fig. 20 12層以下の遺構と周辺の遺構	34

表目次

Tab. 1 遺構出土遺物観察表	9
Tab. 2 遺構一覧表(1)	24
Tab. 3 遺構一覧表(2)	25
Tab. 4 1・3層出土遺物観察表	28
Tab. 5 4層出土遺物観察表	31
Tab. 6 5～13層出土遺物観察表	33
Tab. 7 各層の出土遺物数	34

写真目次

PL. 1 表土掘削前	1
PL. 2 調査区壁面層位	5
PL. 3 遺構出土遺物	9
PL. 4 5層上面検出遺構(1)	10
PL. 5 5層上面検出遺構(2)	11
PL. 6 7層上面検出遺構	12
PL. 7 9層上面検出遺構	13
PL. 8 11層上面検出ピット	14
PL. 9 12層上面検出遺構	16
PL. 10 13層上面検出遺構	18
PL. 11 14層上面検出遺構(1)	21
PL. 12 14層上面検出遺構(2)	22
PL. 13 14層上面検出遺構(3)	23
PL. 14 1・3層出土遺物	27
PL. 15 4層出土遺物	30
PL. 16 5層～10層出土遺物	32

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんち							
シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第2集							
書名	鹿児島大学構内遺跡郡元団地 H-9区							
編著者名	中村直子							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号 Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2006年3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島市郡元一丁目21番35号	4620	1-23-0	31° 34' 11"	130° 32' 48"	平成7年12月6日～平成8年3月19日	440m ²	校舎改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区		近代 近世・中世 古代・古墳時代	溝状遺構・土坑状遺構 溝状遺構, ピット群, 土坑状遺構	陶磁器, 青磁, 瓦器, 須恵器, 土師器, 笹貫式土器, 弥生土器, 縄文後期・晩期土器, 軽石製品, 銃弾				

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、平成7年に情報処理センター（現在の学術情報基盤センター）の増築を伴う改修工事が計画され、工事の設計等を担当する鹿児島大学施設部より、埋蔵文化財調査室へ埋蔵文化財の有無の照会があった。周辺では、昭和58年と62年、2回にわたってセンター建設工事に伴う発掘調査が行われており、古代の河川跡をはじめとする埋蔵文化財が検出されていた。また、旧センターより南東に位置する理学部でも古墳時代の集落と河川跡が確認されており、これらの地点に挟まれた本地点でも埋蔵文化財が包含されていると推定され、埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。

2 調査の期間と体制

調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。期間や調査の体制は以下のとおりである。

調査期間 平成7年12月6日～平成8年3月19日

調査面積 440m²

調査体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄

調査担当 主任 中村直子

技術補佐員 峰山いずみ

作業員 安倍松伊都子 鮎川章子 石谷トキエ 袈谷ミエ子 岩戸エミ子 岩戸トシ子 岩戸トミ子 岩戸ミツ子 上原文代 請園アキエ 請園チリ 臼田和吉 宇都春子 上床久美子 梶尾弘子 小城サチ 坂口ミエ子 寺光ミツ子 新海ミチ子 末吉サチ子 末吉ミヤ 諏訪田ミツ子 瀬戸口論 武田ノブ子 竹本浩二 田中ヒロ子 谷口ノリ 谷口ミヤコ 永里幸子 中原スミエ 中原マス子 名越ヒデ子 中原スミエ 中原マス子 中村いつ子 新原和子 西庄司 西村チエコ 野下ヨシエ 萩原龍一 羽生文彦 原田研二 春成耕一 藤田紀子 福永シノブ 福永花江 松下郁美 松下オカル 松下ミチ 松村恵子 本山美江子 盛満アイ子 盛満サツ子 矢住純子 柳田二三子 柳本照子 山下浩太郎 山之口里香 横山アヤ子 横山真由美 吉永幸子 脇カズ子 脇カツ子 脇トキエ 脇チリ子 脇ツルエ 脇なおこ 渡辺美晴

3 遺跡の位置と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mである。昭和26年以降、発掘調査が多く行われているが、昭和59年までは旧字名等が遺跡の名称として用いられてきた。県立医大遺跡、鹿児島大学構内遺跡、附属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡は郡元団地に含まれる。

郡元団地は縄文時代前期～近世の複合遺跡であるが、特に古墳時代の住居跡群が多く発見され、3つの居住区に分けることができる（Fig.3 I～III）。中央に位置する住居群の北側には河川流路があり、河川跡埋土中からは弥生時代から古墳時代の木製品や



Fig.1 鹿児島市の位置



Fig. 2 鹿児島大学構内遺跡の位置

国土地理院発行の2万5千分の1地形図（鹿児島島南部）より



Fig. 3 鹿児島大学構内遺跡郡元団地 S=1/4000

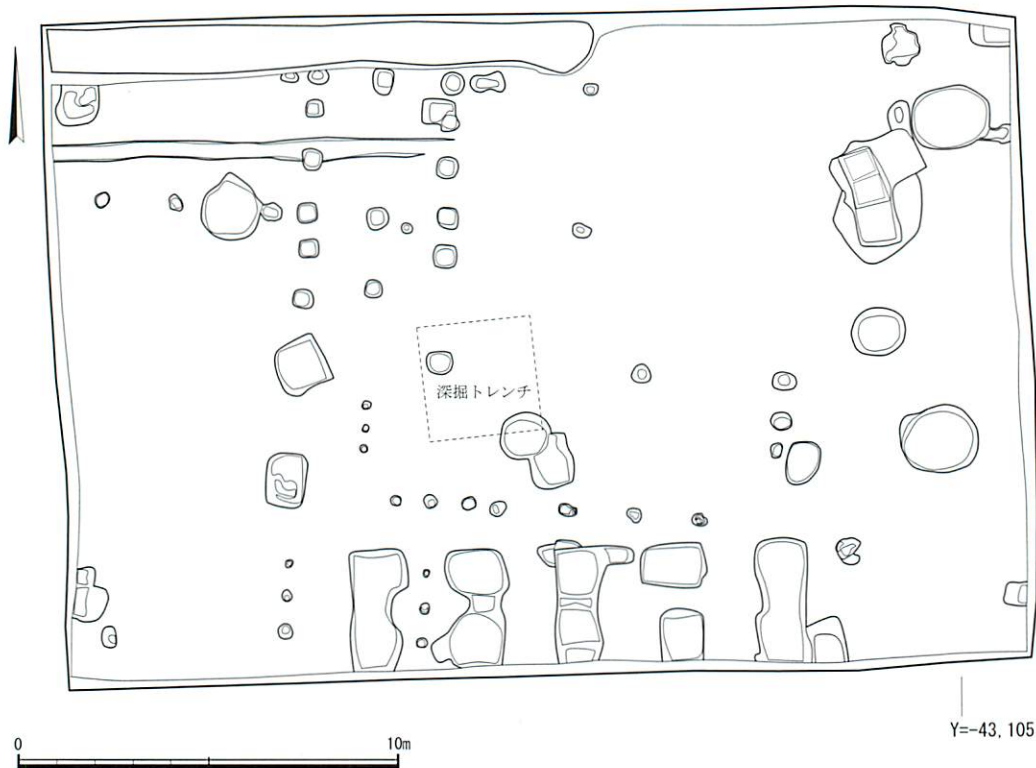


Fig. 4 表土除去後平面図 S=1/200

木杭が出土している。また、平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出された。古墳時代の水田跡はまだ検出されていないが、古墳時代の包含層中には多量のイネのプラント・オパールが含まれており、稲作が継続的に行われていたと推定されている。

4 調査の経過

調査は、表土を重機で掘削した後、プライマリーな層である2層以下を人力による掘削を行った。掘削は基本的に層毎に行い、層の上面で遺構検出状況を確認し、遺構が検出された場合は遺構の検出写真を撮影後、遺構のベルトおよび半裁部分の掘り下げ、埋土観察、写真撮影、完掘写真撮影、測量等を行った。遺物は2層以下の出土品については、全遺物にナンバーを付し、出土地点のポイント測量を行った後、取上げ作業を行った。

遺構は、5層上面以下7枚の面で検出したが、検出面ごとの遺構検出写真と完掘写真撮影を行っている。調査区全面の掘り下げは15層上面までを行い、それ以下はテストトレンチを2か所設定し、20層上面までの掘削を行った。これらのトレンチからは遺物や遺構が確認できなかったため、全面は掘り下げず、調査を終了した。

なお、プラント・オパール分析を宮崎大学農学部



PL. 1 表土掘削前

藤原宏志教授に依頼した。この分析結果については、付編に掲載している。

5 層位

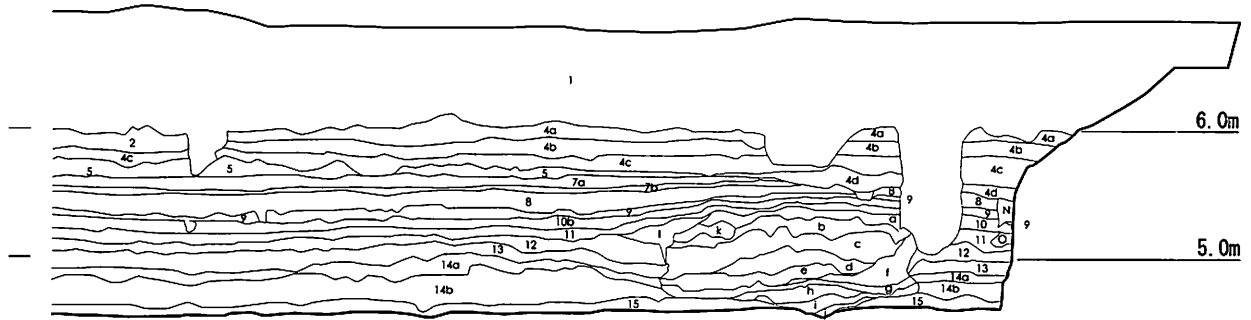
本遺跡では、基本土層として1～19層までを確認した。1～13層までが遺物包含層、5層上面、7層上面、9層上面、11層上面、12層上面、13層上面、14層上面で遺構を検出した。このうち4層は北側ほど厚く堆積しており、5～12層は削平されている。そのため、5・7・9層上面検出遺構は、北側の残りが悪い。各層の説明は以下のとおりである。

- 1層 上部30cm：貝殻層。暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルトを基調とする。
- 2層 褐色（10YR4/6）シルト質砂を基調とする。
- 3層 にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト質砂を基調として4d層土をブロックで含む。
- 4a層 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質砂。0.5cm大の軽石を含む。黄色いパミス含む。
- 4b上層 黄灰色（2.5Y4/1）シルト質砂。パミスを多く含む。鉄分浸透。
- 4b下層 灰黄褐色（10YR5/2）シルト質砂。
- 4c層 暗灰黄色（2.5Y5.2）シルト質砂。軽石を多く含む。
- 4d層 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質砂。8層土をブロック状に含む。
- 4e層 灰黄褐色（10YR6/2）シルト質砂を基調として、4d層をブロックで含む。
- 5層 褐灰色（10YR6/1）シルト質砂。
- 6層 灰黄褐色（10YR6/2）砂質シルト
- 7a層 灰黄褐色（10YR6/2）シルト質砂。鉄分浸透。
- 7b層 灰黄色（2.5Y6/2）シルト質砂、鉄分少し浸透。
- 8層 灰黄褐色（10YR6/2）粘質のシルト、マンガン含む。
- 9層 浅黄橙色（10YR8/3）砂質シルト。粘性なし。
- 10層 灰褐色（7.5YR4/2）少し粘質。砂混じりシルト。パミスを含む。
- 10a層 にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト。少し粘性あり。マンガンを含む。
- 11層 黒褐色（7.5YR3/1）シルト質砂。軽石（1～2cm大）を含む。
- 12層 灰黄褐色（10YR6/2）砂質シルト。細かい。
- 13層 黒褐色（10YR3/1）シルト質砂。少し粘性あり。パミスを含む。0.5cm大の軽石を少し含む。

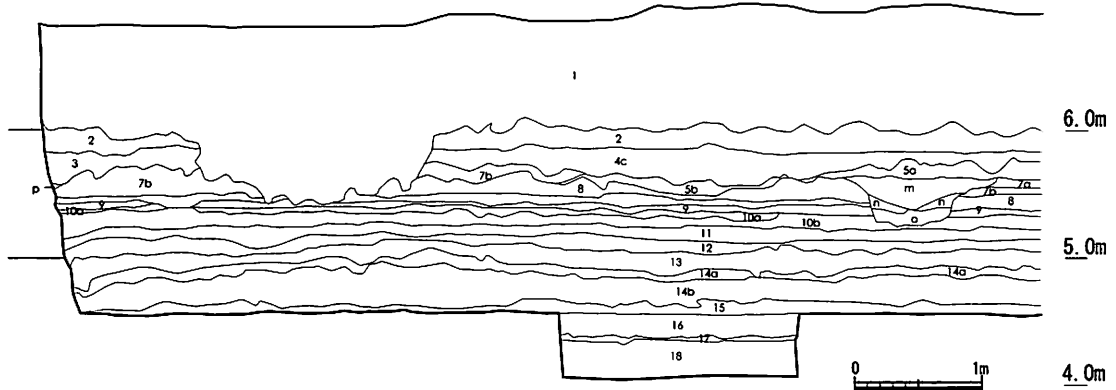


PL. 2 調査区壁面層位

上：南壁層位（西側）、二段目：南壁層位（SD5 付近）、三段目：西壁、最下段：深堀トレンチ北壁（16層以下）



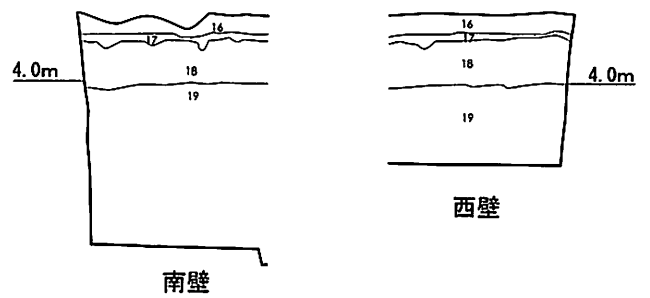
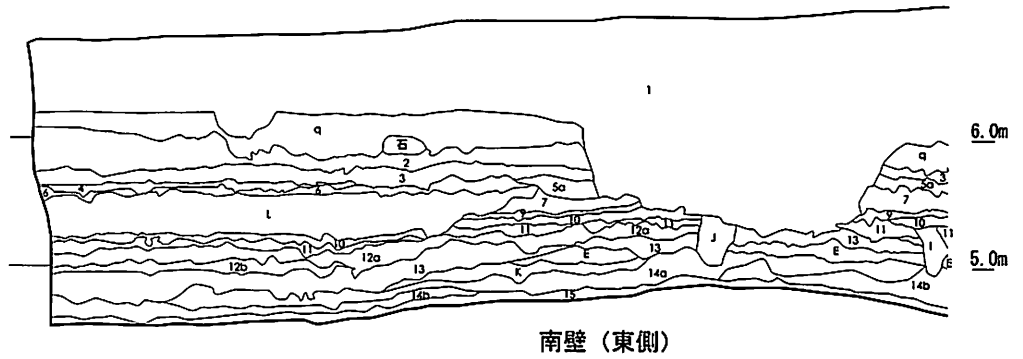
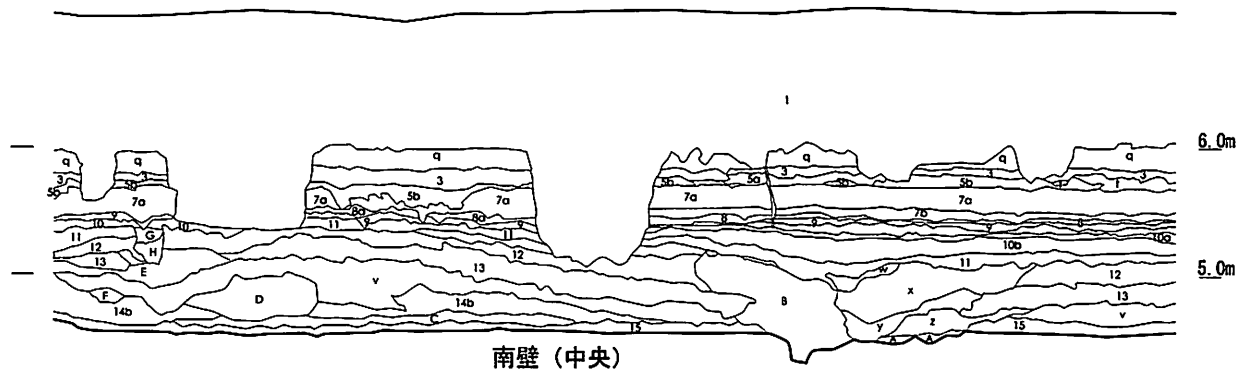
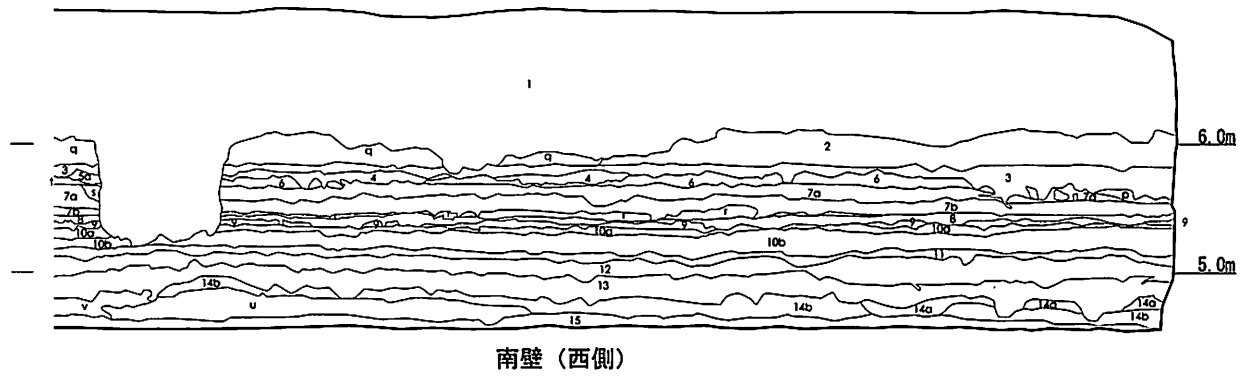
西壁（北側）



西壁（南側）

- a: 1~7cm大の軽石群
- b: 浅黄橙色 (10YR8/3) 粗砂, 3~4cm大の軽石含む
- c: aに同じ
- d: 上部は明褐色 (7.5YR5/6) と白色の粗砂を基調とする, ラミナ, 下部は3cm大の軽石を含む
- e: 白色の粗砂
- f: にぶい黄橙色 (10YR7/3) 砂
- g: にぶい黄橙色 (2.5Y7/6) 砂, 縞状に堆積
- h: 白色の粗砂
- i: 灰黄橙色 (2.5Y5/2) 砂
- j: にぶい黄橙色 (10YR6/3) を基調とする粗砂
- k: にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂
- l: 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂
- m: 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト, マンガン浸透, 一部7層土をブロックで含む
- n: 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質シルト, マンガン浸透
- o: 7, 8, 9層土の混土
- p: にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト質砂, マンガンを含む
- q: 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質シルト, 鉄分を含む
- r: 灰黄橙色 (10YR6/2) 砂
- s: 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
- t: 5a層と5b層土の混土
- u: 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂
- v: 明黄褐色 (2.5Y6/6) 細砂, 上部に粗砂あり
- w: 明黄灰色 (2.5Y5/2) 細砂
- x: 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂
- y: 灰黄褐色 (10YR5/2) 細砂
- z: 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂
- A: 褐灰色 (10YR6/1) 粗砂
- B: b~dに同じ
- C: にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂, 1cm大の軽石含む
- D: 明黄褐色 (2.5Y6/8) 粗砂
- E: 13層土を基調とし, 軽石礫を多く含む
- F: 14a層に類似, にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂層
- G: 11層土に同じ
- H: 11層と12層土との混土
- I: 11層と12層土との混土, 下部が砂質
- J: 上部は8層土基調で, 9層土のブロックを含む, 下部は8層土と12・13層土との混土
- K: 5cm大以下の軽石礫群
- L: SD2埋土, 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト, マンガン浸透
- M: 13層土を基調とし, 軽石礫が非常に多く含まれる
- N: 8層と9層土との混土
- O: 灰黄褐色 (2.5Y5/2) 砂層

Fig. 5 西壁層位断面図 S=1/60



深堀トレンチ



Fig. 6 南壁層位断面図 S=1/60

- 14a層 明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂層。軽石を含む。
- 14b層 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 砂。
- 15層 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 粘質シルト。
- 16層 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。
- 17層 黒褐色 (7.5YR3/2) 泥炭層。
- 18層 黒色 (7.5YR1.7/1) 泥炭層。
- 19層 灰色 (5Y4/1) 砂と泥炭の混土 植物繊維が含まれる。

6 遺構と遺構出土遺物

6.1 5層上面検出遺構 (Fig.8)

5層上面からは、土坑状遺構が10基と溝状遺構1条が検出されたが、調査区の南側半分の5層は削平され、4層が厚く堆積していた。そのため、遺構は北側に集中する。それぞれの遺構の詳細はTab.2のとおりである。土坑状遺構は、長方形タイプと不定形タイプがある。これらのうち、SK4では埋土中に、針金が巻かれ裁断された丸木が横倒しで検出された。他の土坑状遺構も含めて、西北西-東南東方向が長軸方向であり、類似する用途のものであったと考えられる。

出土遺物 (Fig.9・PL.3・Fig.1)

丸木以外の遺構出土遺物としては、陶磁器、土師器、土器などの小片が少量出土しているが、ほとんど遺構に埋設されたものではなく、埋土中に混入したものと考えられる。このうち実測できたのはFig.9 (1・2・67) の3点である。1・2は小片で特に2の表面は摩滅している。67はSK5出土品だが、銃弾で、長さ3.3cm、径1.5cm、重さ30.8gである。これらの遺物の時期は近代以降と考えられる。

— X=-158.715

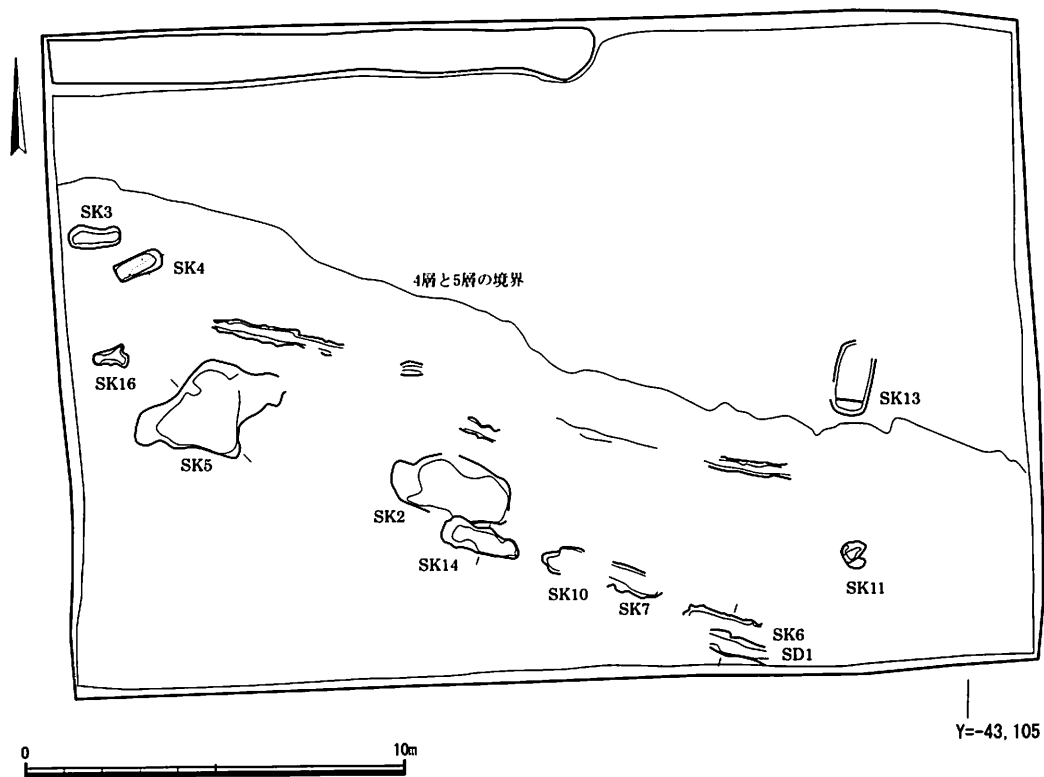


Fig.7 5層上面遺構検出状況 S=1/200

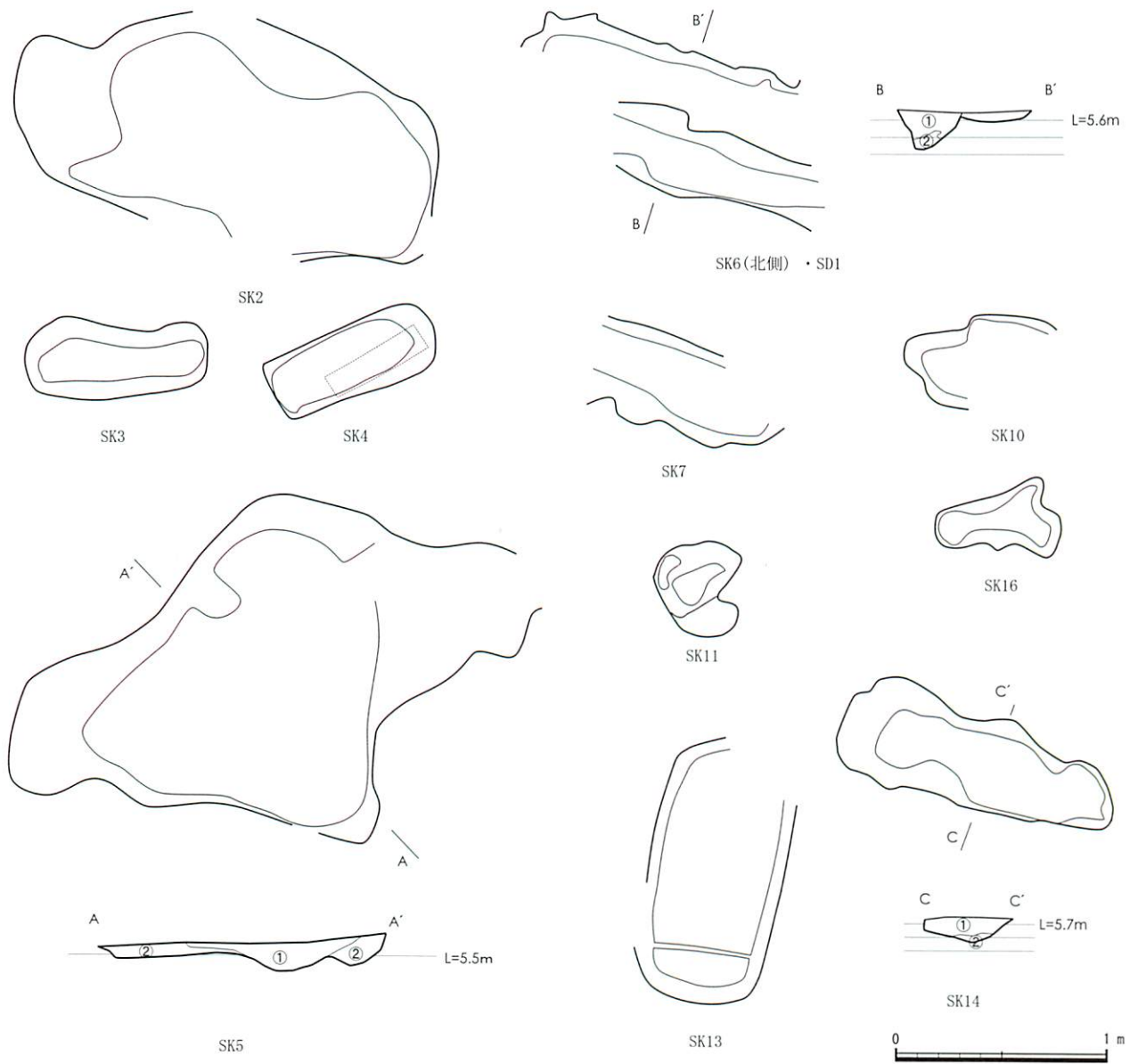


Fig. 8 5層上面検出遺構図 S=1/50 方位は上がすべて真北方向

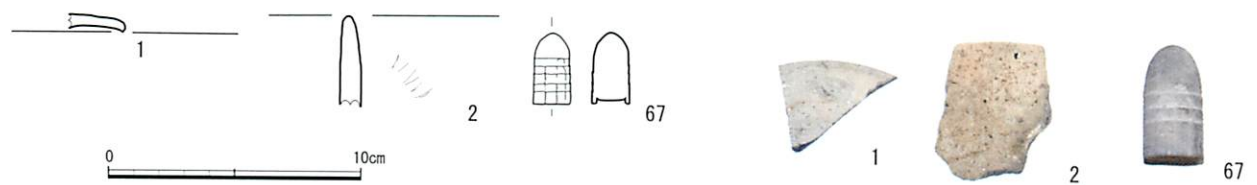


Fig9 遺構出土遺物 S=1/3

PL. 3 遺構出土遺物

Tab. 1 遺構出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の多さ		
1	SK2	白磁	蓋	口縁部	釉薬:透明, 素地:灰白5Y8/1	細砂:黒色粒, 白色粒	1	全面施釉, 回転ナデ(-)	
2	SK11	土器		口縁部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器内:灰白10YR7/1	礫・粗砂:白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂・細砂:白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	5	外面:ハケの打ち込み痕, 内面:ナデ	



PL. 4 5層上面検出遺構(1)

左上: 5層上面検出状況, 右上: 5層上面遺構完掘状況, 左中: SK4・5完掘状況, 左下: SK4丸木出土状況, 右中: SK2埋土, SK5完掘状況



PL. 5 5層上面検出遺構(2)

左上:SK6・SD1完掘,左二段目:SK6・SD1埋土断面(西から),左三段目:SK7埋土断面(西から),左最下段:SK10埋土断面(西から),右上:SK13完掘,右二段目:SK13埋土断面,右三段目:SK14完掘,右最下段:SK14埋土断面(西から)

6.2 7層上面検出遺構

7層上面からは、溝状遺構とピット群が検出された。7層も南側は削平されており、遺構は南側に集中している。SD2は幅約60cm、深さは40~25cmで、やや南側に湾曲しながら東西方向にのびており、一部北側に分岐点が認められる。分岐点より北側にのびる部分は非常に浅く、プランが明瞭ではない。ピット群は溝より北側に多く認められる。直径16~40cmで、25cm前後が多い。深さは、15~50cmまで幅があるが、ほとんど30cm以上である。配列、用途については不明である。この層はプラントオパール分析の結果、水田層であると推定され、SD2は水田の水路である可能性が高い。

— X=-158, 715

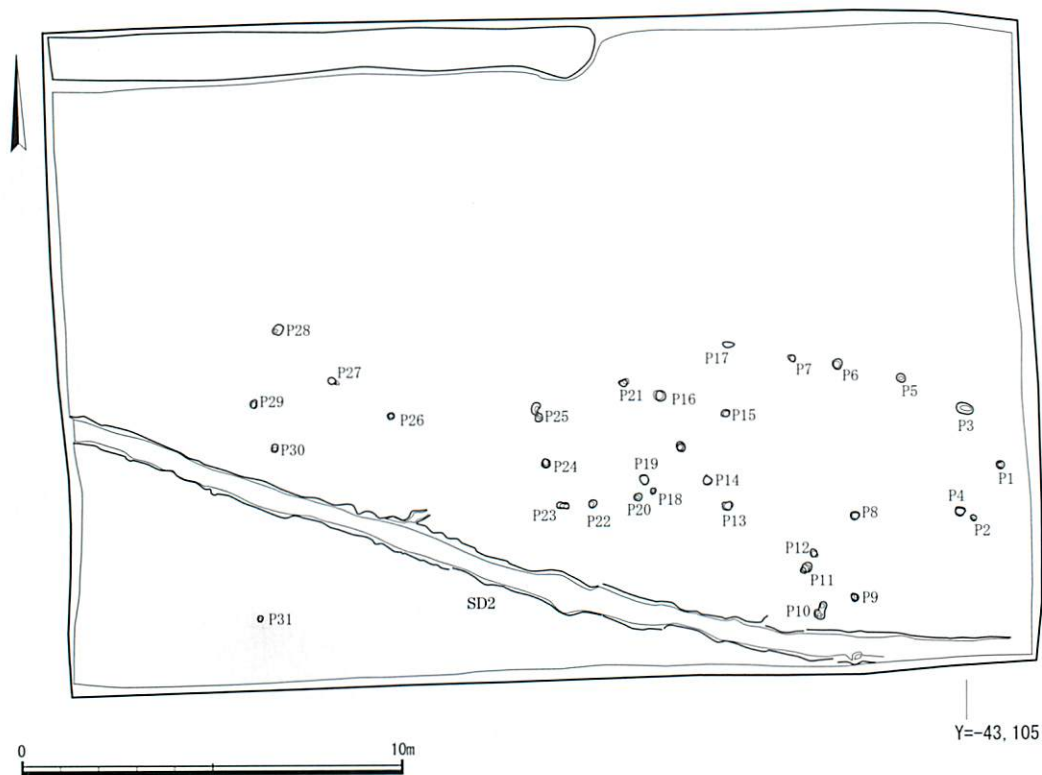


Fig. 10 7層上面遺構検出状況 S=1/200



PL. 6 7層上面検出状況

左：7層上面遺構完掘（東から）、右：SD2 検出状況

6.3 9層上面検出遺構

9層上面からは、溝状遺構とピット群が検出された。SD3は、7層上面検出のSD2の北側に平行し、南北方向十時に分岐する。南北に分岐した部分は東西方向の溝より浅い。ピットは、SD3より南側に位置するものが多いが、配列等不明である。直径は20cm前後が多く、深さは10～46cmである。9層もイネ・プラントオパールが多く検出され、水田面の可能性が指摘されており、SD3はその水路であると考えられる。

— X=-158, 715

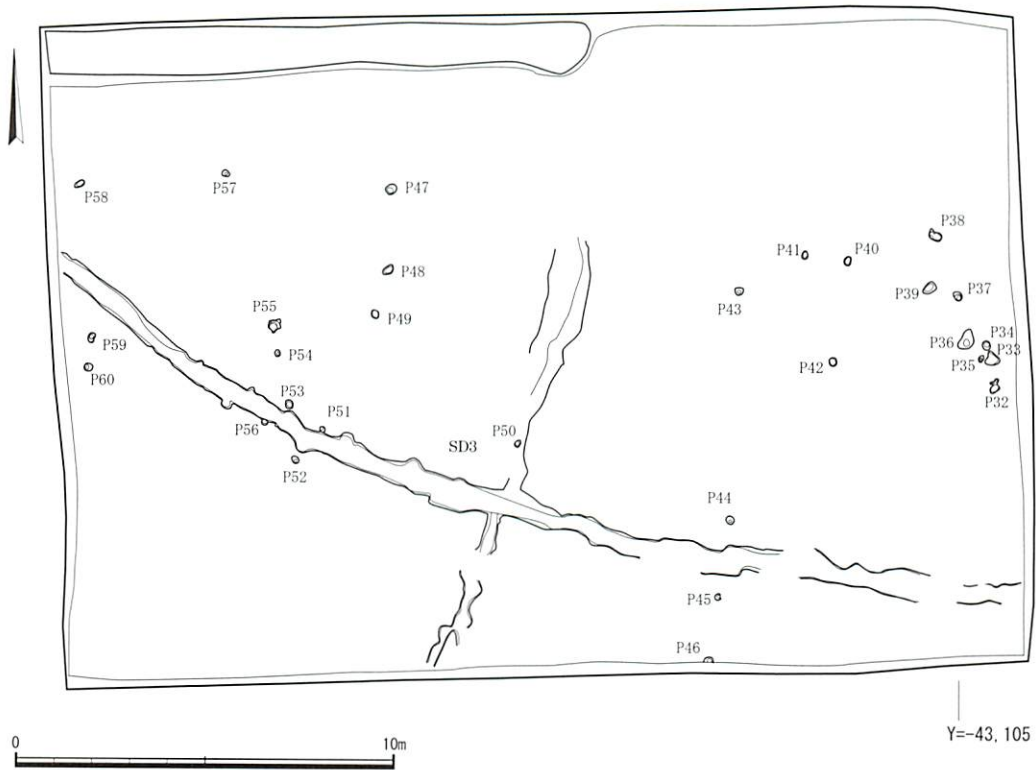


Fig. 11 9層上面遺構検出状況 S=1/200



PL. 7 9層上面検出状況

左：9層上面遺構完掘（東から）、右：SD3完掘状況（西から）

6.4 11層上面検出遺構

11層上面では、ピットを19基検出した。直径が50～16cmで、25cm前後のものが多い。深さは7～43cmで、20cm以上の深さのものは11基ある。ピットは調査区の東側に位置し、西側ではほとんど認められない。配列は不明だが、ピットの集中するエリアがほぼ9層上面検出ピットが位置する地点付近である。この層もイネ・プラントオパール（稲・植物オパール）のピークが認められ、水田面であると推定できる。

— X=-158, 715

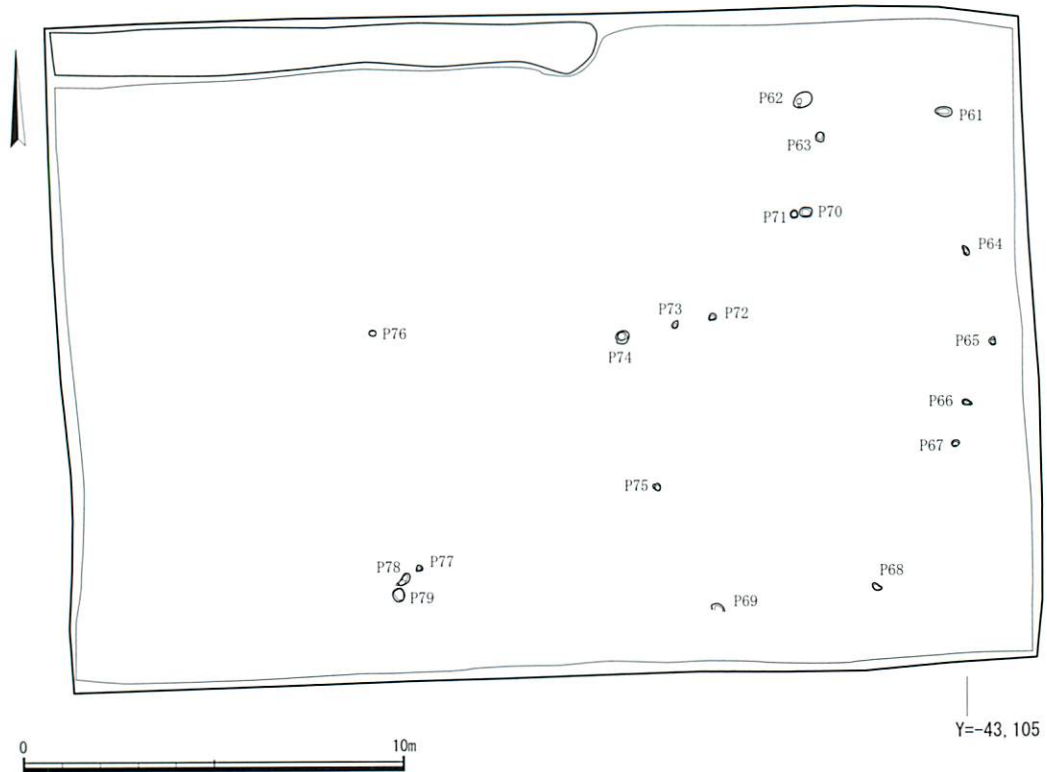


Fig. 12 11層上面遺構検出状況 S=1/200



PL. 8 11層上面検出ピット

6.5 12層上面検出遺構

12層上面では、やや蛇行しながら南北方向にのびるSD4と土坑状遺構13基、調査区西側に帯状の高まりを検出した。SD4は2か所で東へ分岐し、北側は東に、南側はさらに南北方向に2方向に分岐するが、どちらとも浅い。西側の高まり部分は、西壁層位断面図で観察すると、12層から掘り込んだSD6が埋まり (Fig. 5西壁c~j)、さらにその上に砂礫層 (同図a・b・k・l)が堆積している。したがってSD6は、12層上面から掘り込まれた遺構である可能性が高いが、12層土とSD5埋土との境界が判然としなかったため、調査では13層上面で検出した。本稿では、13上面検出遺構として次節で紹介する。SD4はSD5埋土上の高まりを切っており、SD6より古い。

— X=-158, 715

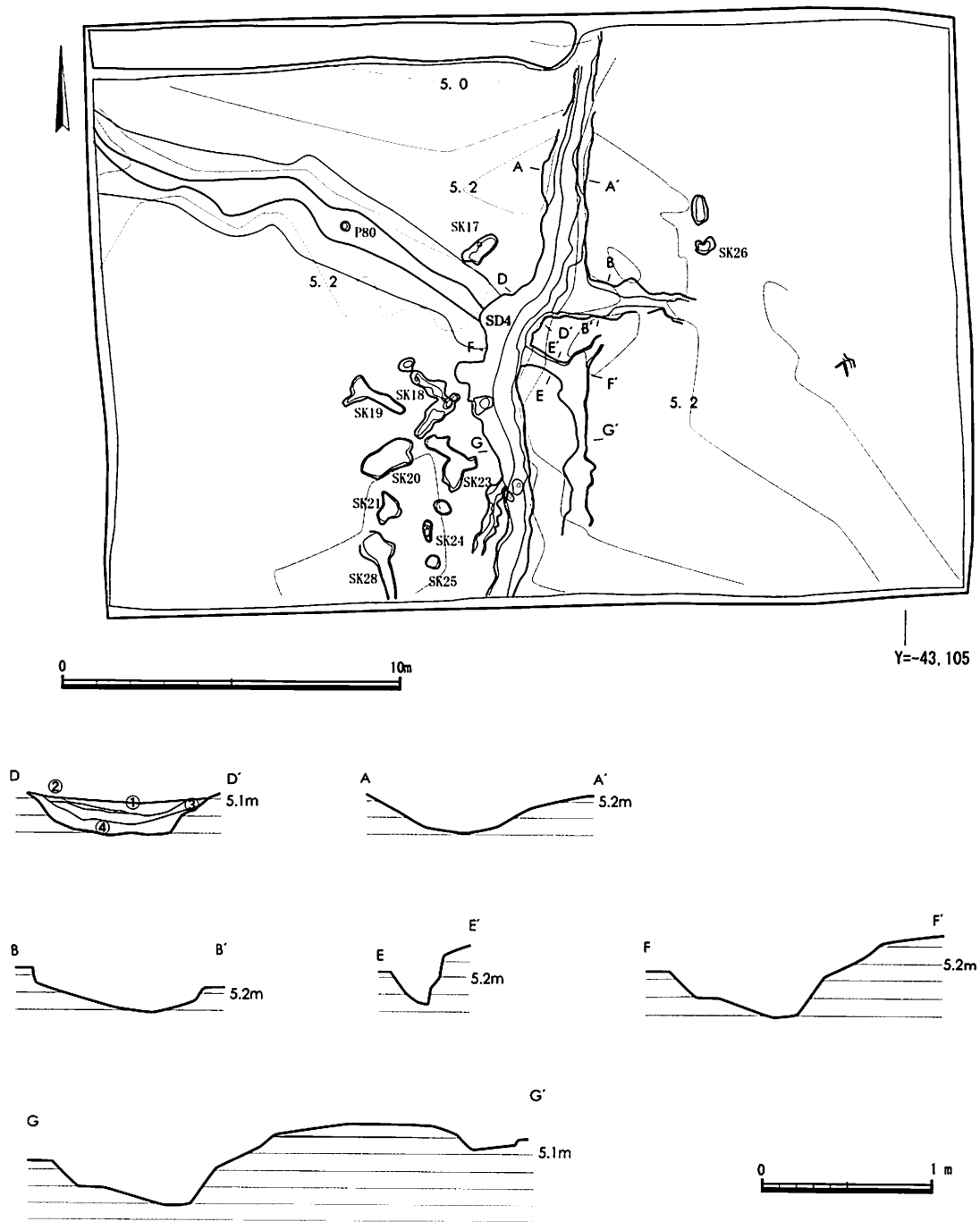


Fig. 13 12層上面遺構検出状況 平面：S=1/200 断面：S=1/40



PL. 9 12層上面検出遺構

左上：SD4 検出状況（北から）、左二段目：11層上面遺構完掘状況（東から）、右上：11層上面遺構完掘状況（南西から）、右二段目：SD4 埋土断面、下段：SD4 完掘状況（南から）

6.6 13層上面検出遺構

13層上面では、溝状遺構SD6と、それに平行するSD5、ならびに北東角にSD9・10が検出された。また、調査区東側には3か所のエリアに分かれた小さなくぼみのまとまりが検出された。SD6は前節でも述べたように、12層を切っており、本来は、12層検出遺構に含めるものであるが、調査時では13層上面で検出したため、本節で紹介する。

SD6は幅約2.6m、深さ約70cmを測る。調査区中央部で二股に分かれており、北側に分かれる部分は、幅約1m、深さ50cmで若干浅めである。埋土は砂礫で、軽石礫なども多く混入している。遺物は、土器片が1点出土しているのみである。SD5はその東側に位置し、南北方向に走る。幅約80cm、深さ約15cmで、西側に分岐部があり、SD6とつながっている。このことから、SD6と同様な溝状遺構が12層堆積前にも存在していた可能性が高いと考えられる。SD5の北側は、東西にそれぞれ分岐している部分が認められるが、浅くその輪郭は不明瞭である。

SD6の北側とSD6とSD5の間は、13層上面に高まりが認められるが、SD5より東側はほぼ水平で、小さなくぼみのまとまりが3か所で確認できる。くぼみには、上層の12層土が埋まっていた。

— X=-158.715

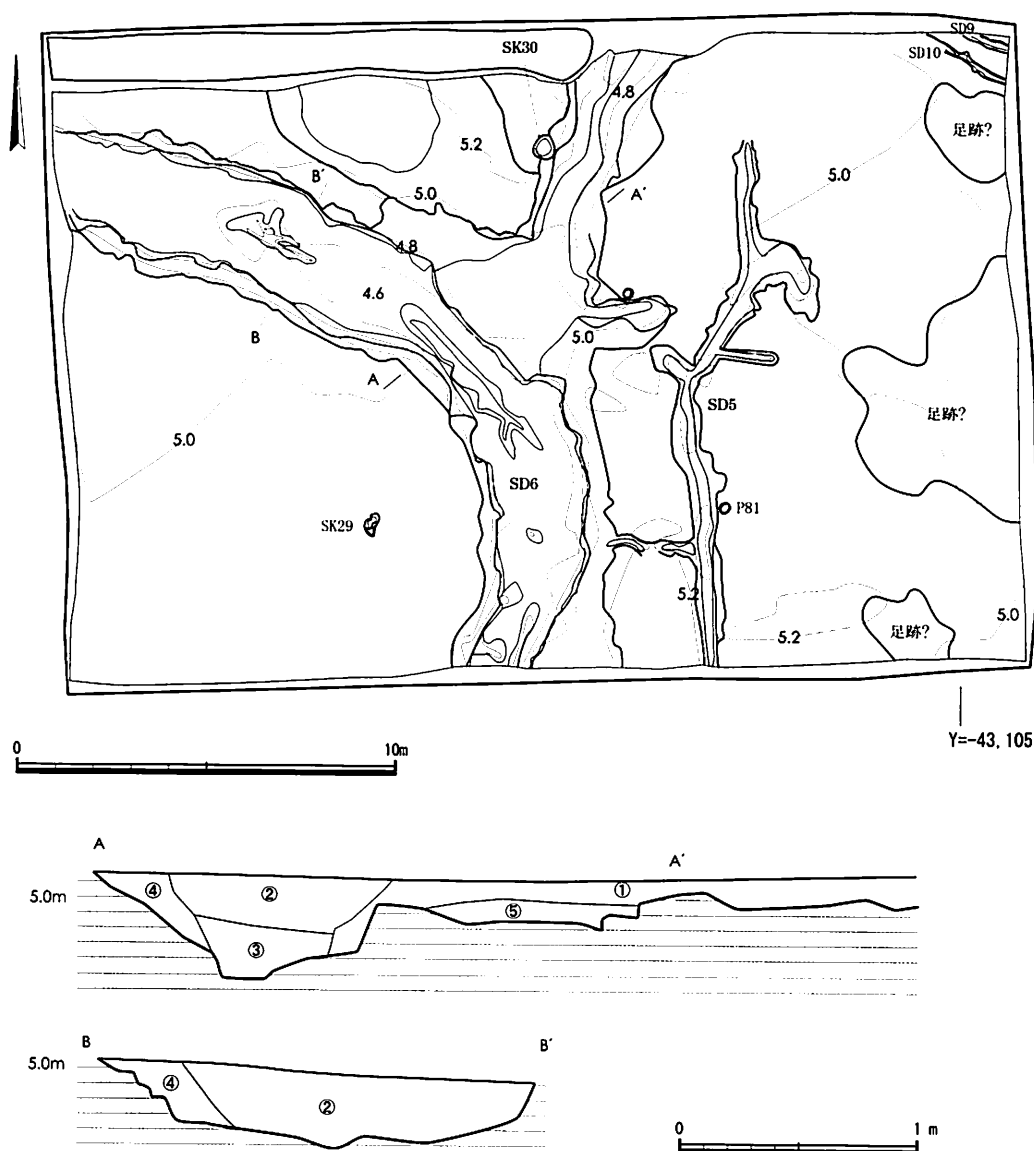


Fig. 14 13層上面遺構検出状況 平面：S=1/200 断面：S=1/50



PL. 10 13層上面検出遺構

左上：13層上面検出状況（東から）、右上：SD5検出状況（南から）、左二段目：13層上面遺構完掘状況（東から）、右二段目：SD5完掘状況（北から）、左三段目：SD6完掘状況（西から）、左最下段：SD6埋土断面、右三段目：SD5埋土断面、左最下段：SD5・6完掘状況（北から）

6.7 14層上面検出遺構

14層上面では、調査区北側に溝状遺構2条、調査区南西部に土坑状遺構7基、中央部にピットを24基検出した。溝状遺構は、SD7が幅90cm、SD8は1.6mで深さは浅い。13層上面検出のSD6に切られているが、SD6の方向に底面が傾斜しており、SD6もしくは同様の溝が存在していた可能性は高い。

南西部の土坑群（SK38・39・41・42～44・46）は、いずれも楕円形状の不定形を呈している。SK38はSD6に切られ、SK44と46は調査区外に広がっているため、全形を確認できたものはSK41～43のみである。大きさは長さ2.5～4m、幅1.2～2.5mを計る。いずれも底面が丸く、土坑の外側や底面に複数のピットを伴うものが多い。ピットの大きさは様々であるが、深さは深いもので15cm、ほとんど10cm前後で浅い。SK38・39・41・43・46は埋土が2層に分層できるが、SK42・44はその上層である13層土のみが堆積している。前者の深さは、21～28cm、後者の深さは18cm前後でいずれも浅い。遺物も出土しておらず、性格は不明である。

ピットは深さ7～28cm、ほとんどが10cm前後で浅い。配列等も不明である。14層は砂層で、これらのピットが人為的なものであるかは不明である。

— X=-158, 715

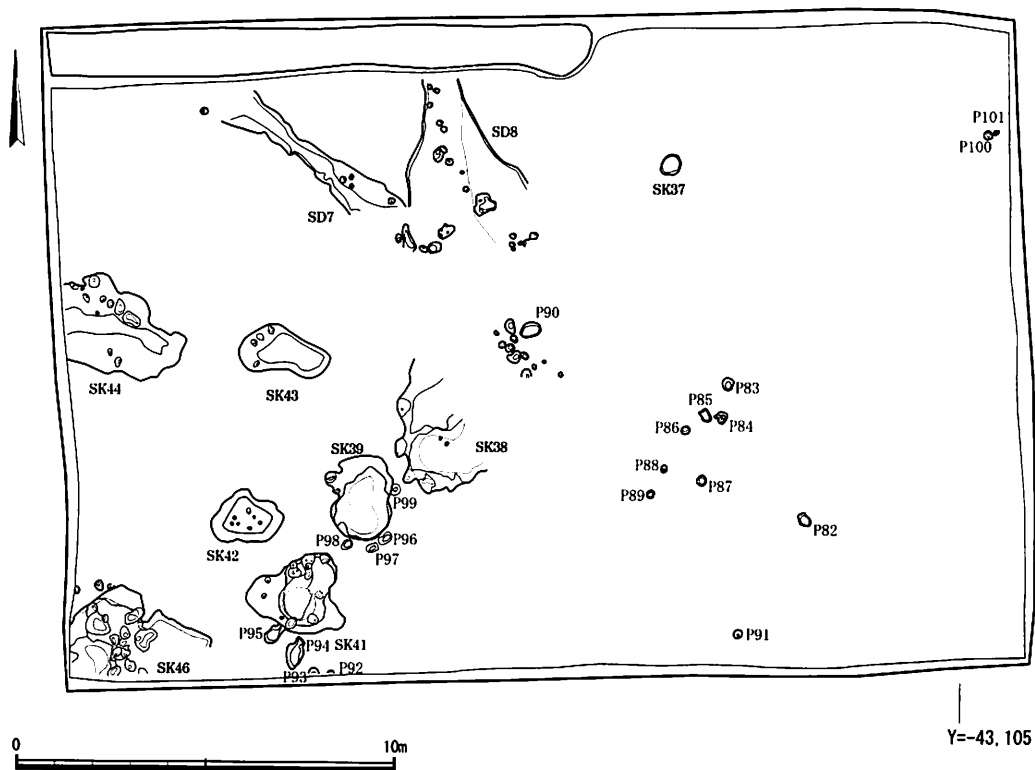
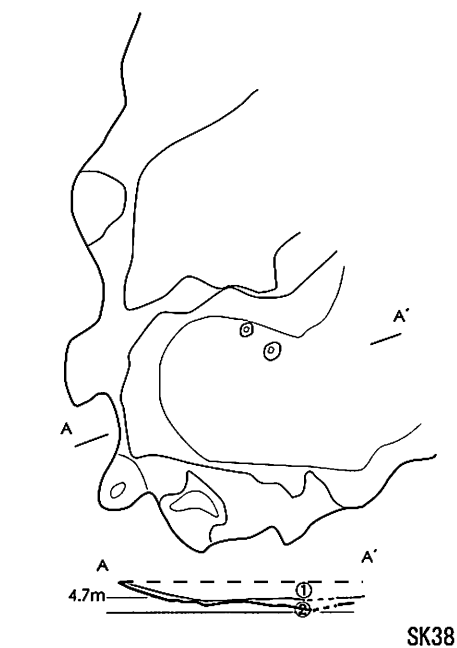
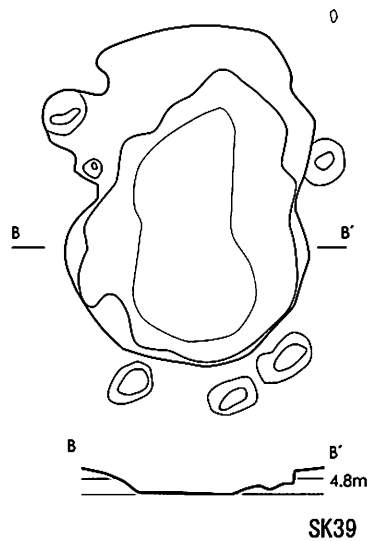


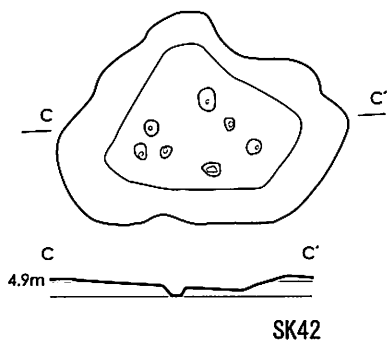
Fig. 15 14層上面遺構検出状況 S=1/200



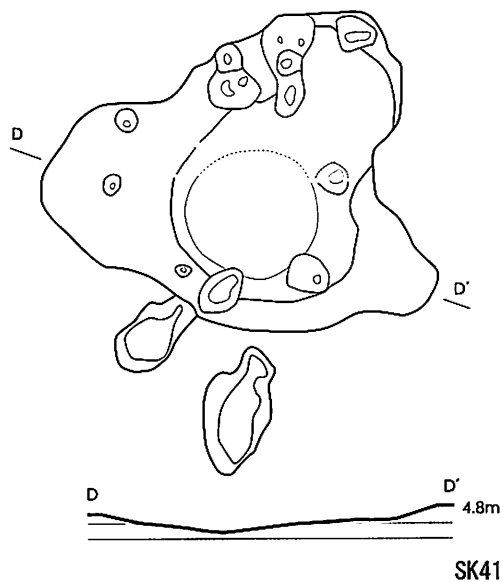
SK38



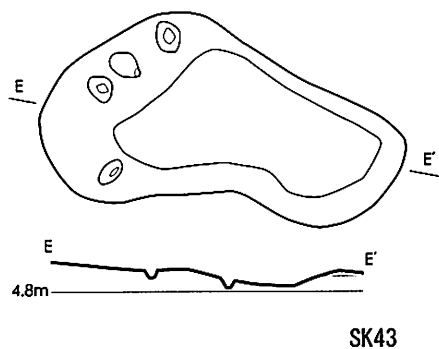
SK39



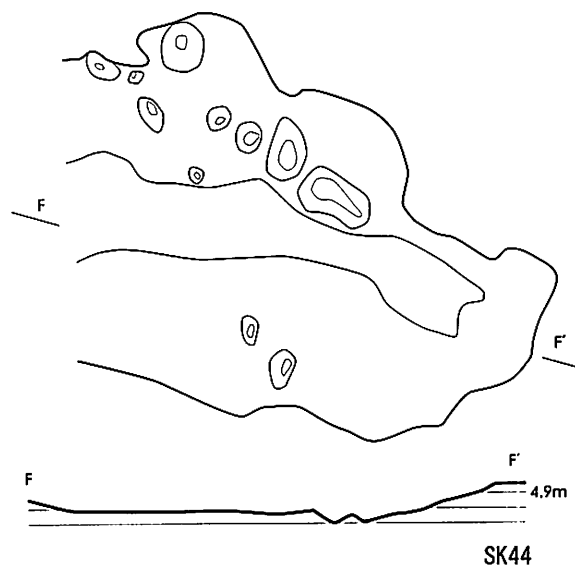
SK42



SK41



SK43



SK44



SK46

Fig. 16 14層上面検出遺構図 S=1/50 方位はすべて上が真北方向





PL.11 14層上面検出遺構(1)

左上：14層上面検出状況（東から）、右上：SD7・8完掘状況（西から）、左二段目：西側遺構検出状況（西から）、左三段目：14層上面遺構完掘状況（東から）、左最下段：SK37検出状況（西から）、右二段目：SK38検出状況、右三段目：SK38埋土①除去後（南から）、左最下段：SK38完掘状況（東から）



PL. 12 14層上面検出遺構(2)

左上：SK39埋土①除去後，左二段目：SK39埋土②断面，左三段目：SK39完掘状況，左最下段：SK42検出状況，右上：SK41埋土①除去後（東から），右二段目：SK41埋土②断面，右三段目：SK41完掘状況（南から），右四段目：SK43埋土①除去後，右最下段：SK43埋土②断面



PL. 13 14層上面検出遺構(3)

左上: SK43 完掘状況, 左二段目: SK44 埋土検出状況, 左三段目: SK44 埋土①除去後, 左最下段: SK44 完掘状況, 右上: SK46 埋土検出状況(南西から), 右二段目: SK46 埋土①除去後(南西から), 右最下段: SK46 完掘状況(南から)

Tab. 2 遺構一覧 (1)

検出面	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋 土	備 考	
5層上面	SK2	350	165	37.8	黄灰色 (2.5Y5/1) 砂混じりシルトに、橙色 (7.5YR6/8) 砂質シルトがブロック状に含まれる。特に、西側底近くに多い。	磁器・土師器・土器少量出土しているが、いずれも小片。SK14に切られる。	
5層上面	SK3	140	52	45.9	4層土		
5層上面	SK4	124	52	44	黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質砂に、暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質砂ブロック (2.5Y6/3) にぶい黄色シルト質砂ブロックと約3cm大のパミスを含む。		
5層上面	SK5	405	223	36.5	4層土	土師器と土器の破片・銃弾出土。	
5層上面	SK6	230	60	10.1	黒褐色 (10YR3/1) シルト質砂ににぶい黄色 (2.5Y6/3) のブロックと5mm大のパミスを含む	SD1に切られる。	
5層上面	SK7	152	67	26	黒褐色 (10YR3/1) シルト質砂ににぶい黄色 (2.5Y6/3) のブロックと5mm大のパミスを含む		
5層上面	SK10	97+ α	75	17.8	黒褐色 (10YR3/1) シルト質砂ににぶい黄色 (2.5Y6/3) のブロックと5mm大のパミスを含む		
5層上面	SK11	65	63	18.2	褐灰色 (10YR4/1.5) 褐灰色～灰黄褐色シルト質砂。にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト質砂のブロックと粗砂を含む。1cm大の軽石を含む	土師器出土	
5層上面	SK13	200	130	24	オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト質砂	北側部分、攪乱により削平されている。	
5層上面	SK14		68	18.4	埋土①：黒褐色 (10YR3/1) シルト質砂ににぶい黄色 (2.5Y6/3) のブロックと5mm大のパミスを含む。埋土②：褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂。5mm大のパミスを含む。鉄分浸透	埋土中から丸木出土。	
5層上面	SK16	92	40	10.3	4層土		
5層上面	SD1		50	32.2	埋土①：褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂。5～10mm大のパミスを含む。鉄分浸透。埋土②：黒褐色 (10YR3/1) シルト質砂。		
7層上面	SD2		63		6層土	北側にのびる分岐点あり。	
9層上面	SD3		69～80	10cm前後	8層土	十字形に交差する。	
12層上面	SK17	117	49.7	16.5	11層土	いずれも不定形で、浅め。特に、調査区南西側、SD4近くに集中している。	
12層上面	SK18	170	160	23.3	11層土		
12層上面	SK19	180	88	14.4	11層土		
12層上面	SK20	170	74	14	11層土		
12層上面	SK21	82.8	60	12.5	11層土		
12層上面	SK22	154	118	18	11層土		
12層上面	SK23	53.5	38.5	15.8	11層土		
12層上面	SK24	42	25	24.3	11層土		
12層上面	SK25	44.3	56.6	8	11層土		
12層上面	SK26	56	53	22	11層土		
12層上面	SK27	82.5	46	16	11層土		
12層上面	SK28	201	92.7	18.5	11層土		
12層上面	SD4		66	25cm前後	①褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂, ②にぶい黄橙色 (10YR 7/3), ③暗灰色 (N3/) シルト質砂, ④灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂		二箇所東側に分岐する。分岐部は浅い。

Tab. 3 遺構一覧 (2)

検出面	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
13層上面	SD5		80	10~20	灰黄褐色 (10YR6/2) 細砂。	
13層上面	SD6		290	70	①上部は灰白色 (5Y7/2) 細砂, 下部は明赤褐色 (5YR5/8) 細砂, ②明赤褐色 (10YR5/8) 細砂で3~4cm大の軽石礫群を含む, ③にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂と灰白色 (5YR7/2) 粗砂が縞状に堆積, ④にぶい黄褐色 (10YR5/3) 細砂, ⑤灰白色 (5Y7/2) 粗砂	
13層上面	SK29	59	30	17.8	黒褐色 (10YR) 砂質シルトを基調として、にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトの1cm大のブロックと軽石を少し含む。	
13層上面	SK30	64	50	28	(10YR6/2) 粗砂まじり細砂。	
13層上面	SD9		25.5	10	灰黄褐色 (10YR6/2) 細砂。	
13層上面	SD10		17.9	3	灰黄褐色 (10YR6/2) 細砂。	
14層上面	SK37	60	60	9.5	褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂, 0.2~2cm大の軽石を含む。	
14層上面	SK38	346		25.3	①13層土と細砂との混土。②浅黄色 (2.5Y7/3~4) シルト質砂, 13層土の混ざりが多い。1~3cm大の軽石を含む	
14層上面	SK39	221	154	19.9	①13層土と細砂との混土。②浅黄色 (2.5Y7/3~4) シルト質砂, 13層土の混ざりが多い。1~3cm大の軽石を含む	
14層上面	SK40				13層土と細砂との混土。	
14層上面	SK41	264	223	22.9	①13層土と細砂との混土。②浅黄色 (2.5Y7/3~4) シルト質砂, 13層土の混ざりが多い。1~3cm大の軽石を含む	
14層上面	SK42	187	140	18.3	13層土と細砂との混土。	

No.	検出面	長さ (cm)	深さ (cm)	No.	検出面	長さ (cm)	深さ (cm)	No.	検出面	長さ (cm)	深さ (cm)	No.	検出面	長さ (cm)	深さ (cm)
P1		21.6	41.3	P27		23.7	13.9	P53		22	5.7	P79	11層上	32.3	18.9
P2		13.4	41.7	P28		28.8	18.6	P54		18.7	37.1	P80	12層上	26	19.9
P3		44.9	19.5	P29	7層上	22.4	43.4	P55		22	5.7	P81	13層上	27	21.7
P4		23.7	37.7	P30		21.2	30.7	P56	9層上	12	46.6	P82		45	8.5
P5		23	11.7	P31		32	23.8	P57		15	22.7	P83		31	16.4
P6		25.1	30.5	P32		25.3	19.5	P58		28	4.7	P84		29	27.8
P7		21.9	54.5	P33		37.4	27.1	P59		26	11.9	P85		32	5.9
P8		23.6	38.6	P34		23.9	11.4	P60		20	17.1	P86		18	12.5
P9		21.2	41.6	P35		18.1	13.7	P61		42	9.4	P87		28	10.5
P10		45.5	37.9	P36		52	21.4	P62		50.6	26.5	P88		18	12.5
P11		27.5	53.3	P37		25.2	45.2	P63		24	18.8	P89		19	18.5
P12		23.2	37.1	P38		33.3	26.6	P64		28.4	22.8	P90		54	14.1
P13	7層上	26	56.9	P39		35	12.2	P65		21.4	24.2	P91	14層上	21	13.6
P14		26.2	26	P40		26	14.7	P66		25.3	43.7	P92		16	5.4
P15		19	38.2	P41		25	34	P67		19	41.3	P93		26	10.6
P16		27.9	49.6	P42	9層上	18.2	20.6	P68		27.7	8.1	P94		85	17.1
P17		24	40.9	P43		22.1	16	P69	11層上	33.3	9.8	P95		60	17.5
P18		16.7	10	P44		22	23.4	P70		30.8	16.8	P96		20	11.8
P19		25.2	34.7	P45		18	17.8	P71		21.8	6.9	P97		32	13.6
P20		18.6	28.6	P46		25.5	22.2	P72		20.1	20	P98		28	10.7
P21		21.2	29.1	P47		28	15.7	P73		20	21.3	P99		31	11.9
P22		21	31.2	P48		30.6	8.1	P74		37.9	32.6	P100		23	9.2
P23		31.4	39.3	P49		22	11.9	P75		21.5	47.4	P101		16	6.8
P24		24.5	33.9	P50		18.7	14.8	P76		17.3	10.7				
P25		47.8	36.5	P51		24.1	21	P77		18.1	20.3				
P26		17.1	13.9	P52		18.7	37.1	P78		36.3	28.8				

7 包含層出土遺物

遺物包含層からの出土遺物数は、約700点である。層ごとの出土状況を見ると、4層出土遺物が多く、ついで3層出土遺物となっている。なお、時期が詳細に分かる遺物は少ないが、近代の陶磁器等は3層まで、近世の遺物包含層は4層以上、中世の遺物包含層は5層上面以上で出土している。それ以下は土師器や土器片、縄文時代土器等の遺物が数点出土しているが、いずれも小片で少なく各層の時期は確定できない。最下の遺物包含層は13層であるが、それには古墳時代の土器が包含されていることから、13層の時期の上限は古墳時代で、それ以上の層に含まれる古い遺物は、周辺からの混ざりこみであろうと考えられる。遺物の詳細については、観察表を参照されたい。

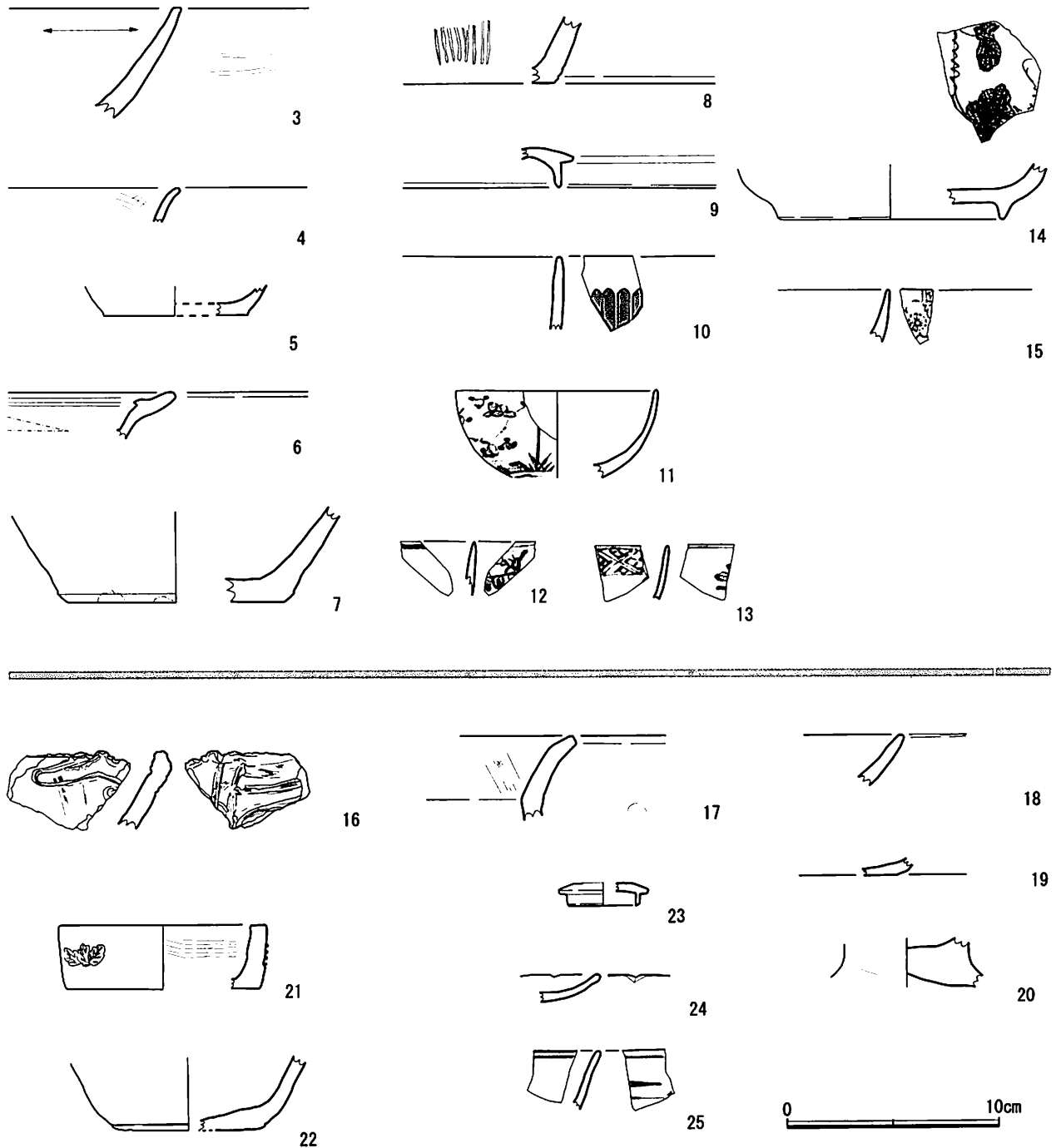
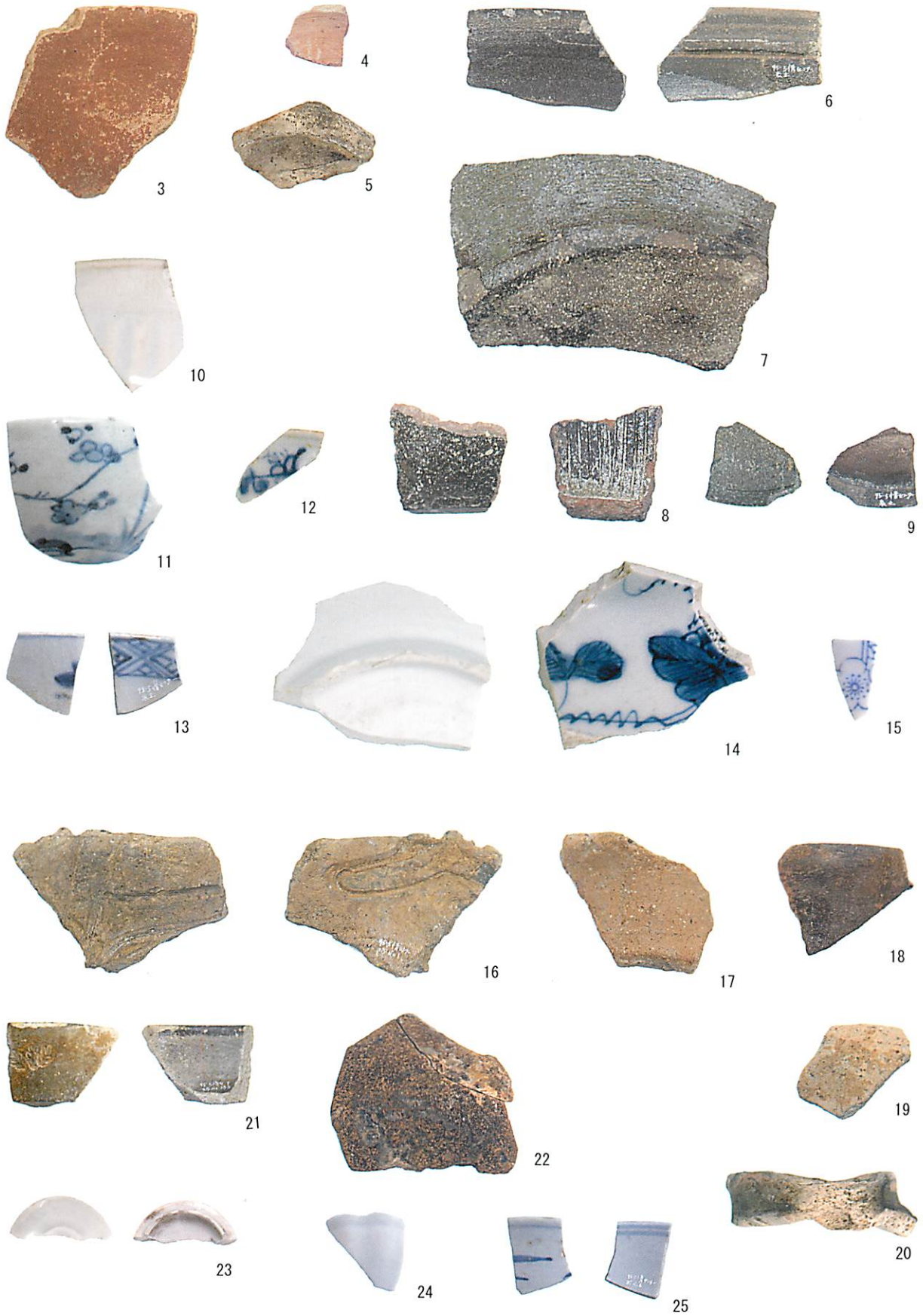


Fig. 17 1・3層出土遺物 S=1/3



PL. 14 1・3層出土遺物写真

Tab. 4 1・3層出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
3	1	古墳	高杯	口縁部	外面：明赤褐5YR5/6, 内面：浅黄橙10YR8/3, 浅黄橙7.5YR8/6, 器内：浅黄橙10YR8/4	砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒	1	外面：ミガキ(一), 内面：ナデ(一)	
4	1	土師器	?	口縁部	外面：浅黄橙7.5YR8/4, 浅黄橙7.5YR8/5, 内面：にぶい橙7.5YR7/4, 器内：にぶい橙7.5YR7/3	砂：黒色粒, 細砂：透明粒	1	外面：回転ナデ(一), 内面：回転ナデ(一), ナデ(＼)(ノ)	
5	1	土師器	杯	底部	外面：にぶい黄橙10YR7/2, 内面：浅黄橙10YR8/4, 黄肉：浅黄橙10YR8/4	粗砂：赤色粒, 黒色粒, 砂：赤色粒, 黒色粒, 白色粒, 細砂：透明粒	1	外面：回転ナデ, 底面：糸切り痕	汚れ付着, 底径：(6.8) cm
6	1	薩摩焼	?	口縁部	釉薬：褐灰(不透明釉)10YR4/1, 素地：にぶい黄橙10YR7/2に類似	砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	1	全面施釉, 内面：一部無釉の箇所あり, 内外面：ロクロによる回転ナデ(一)	17C
7	1	薩摩焼	甕	底部	釉薬：灰オリーブ10Y5/2, 素地：明赤褐5Y5/6	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒	3	外面：施釉(底部に一部無釉の箇所あり), 回転ナデ(一), 内面：攪鉢状	底径：(10.3) cm
8	1	陶器	摺鉢	底部	釉薬：灰オリーブ7.5Y4/2, 素地：明赤褐2.5YR5/6	粗砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	2	全面施釉, 外面：ナデ(一), 内面：攪鉢状	18C?
9	1	陶器	蓋	口縁部	釉薬：灰オリーブ7.5Y4/2に類似, 素地：にぶい赤褐5YR5/3	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	1	外面上部のみ施釉, 内面：ロクロによる回転ナデ(一)	
10	1	白磁	?	口縁部	釉薬：透明, 素地：白N9/	砂：黒色粒, 細砂：黒色粒	1	全面施釉	在地産, 19C第二四半紀～幕末
11	1	磁器	碗	口縁部	釉薬：透明, 素地：灰白5Y7/1	砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回転ナデ(一)	外面：呉須による草花模様 の絵付け, 内面：口縁部直下に呉須による絵付け, 口径：(9.6) cm, 肥後焼, 18C後半
12	1	陶器	?	口縁部	釉薬：透明, 素地：白N9/	砂：赤色粒	1	全面施釉	
13	1	磁器	碗	口縁部	釉薬：透明, 素地：灰白5Y8/1	細砂：白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回転ナデ(一)	外面：白濁, 貫入あり, 口縁部直下に黒線1条, 内面：貫入あり, 肥前焼か?
14	1	磁器	皿	底部	釉薬：青みがかった透明, 素地：白N9/	砂：赤色粒, 細砂：黒色粒, 赤色粒	1	高台内面のみ無施釉, 外面：回転ナデ(一), 高台内面：回転ナデ	底径：(10.6) cm, 18C末～19C前半, 肥前焼か 平佐焼
15	1	磁器	皿	口縁部	釉薬：透明, 素地：灰白N8/	細砂：白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回転ナデ	銅版転写
16	3	縄文	深鉢	口縁部	外面：にぶい黄橙10YR5/4, 内面：黄橙10YR5/6, 器内：明黄橙10YR6/8	粗砂：黒色粒, 角閃石, 砂：黒色粒, 角閃石, 石英, 細砂：黒色粒, 石英	2	外面：棒状工具による沈線文と刻目, 内面：棒状工具による沈線文, 施文工具によるナデ	指宿式
17	3	古墳?	甕	口縁部	外面：にぶい橙7.5YR6/4, 内面・器内：にぶい黄橙10YR7/2	粗砂～細砂：白色粒, 黒色粒, 角閃石, 石英, 赤色粒	10 p	外面：ヨコナデ, 内面：ナデ	
18	3	土師器?	杯	口縁部	外面：褐灰7.5YR4/2, 内面：褐灰10YR4/1	細砂：赤色粒	1	外面：ミガキ, 内面：ハケのちミガキ	
19	3	土師器	皿	底部	外面：にぶい黄橙10YR7/3, 内面：にぶい黄橙10YR7/4	砂：赤色粒, 細砂：黒色粒, 赤色粒, 白色粒	2	ナデ	外面鉄分若干付着
20	3	土師器	杯	底部付近	外面：灰5Y4/1, 内面：にぶい橙5YR7/4, 高台内面：灰白2.5Y8/2	微細砂：白色	1	ナデ?	全体に摩滅している
21	3	瓦器	火鉢	縁部～底部	外面：暗灰黄d2.5Y5/2, 内面：灰白5Y7/1, 底面：灰5Y5/1, 口唇部上面：灰N4/	砂・細砂：白色粒, 赤色粒	1-5	外面・底面：ナデ, 内面：ハケのちナデ	外面に、草文のスタンプ
22	3	土師器	鉢	底部	表面に鉄分付着のため一部のみ：灰5Y6/1	鉄分着のため不明		不明	鉄分付着
23	3	磁器	蓋		外面：灰白10Y8/1(透明釉), 内面・磁胎：白色	微細な白色粒	1	回転ナデ	
24	3	磁器	皿	口縁部	白(透明釉)	微細な白色粒	1		型打ち成形, 輪花皿
25	3	磁器	碗	口縁部	明青灰5B7/1に類似(透明釉), 呉須はコバルトブルーを基調		1	全面施釉	肥前焼

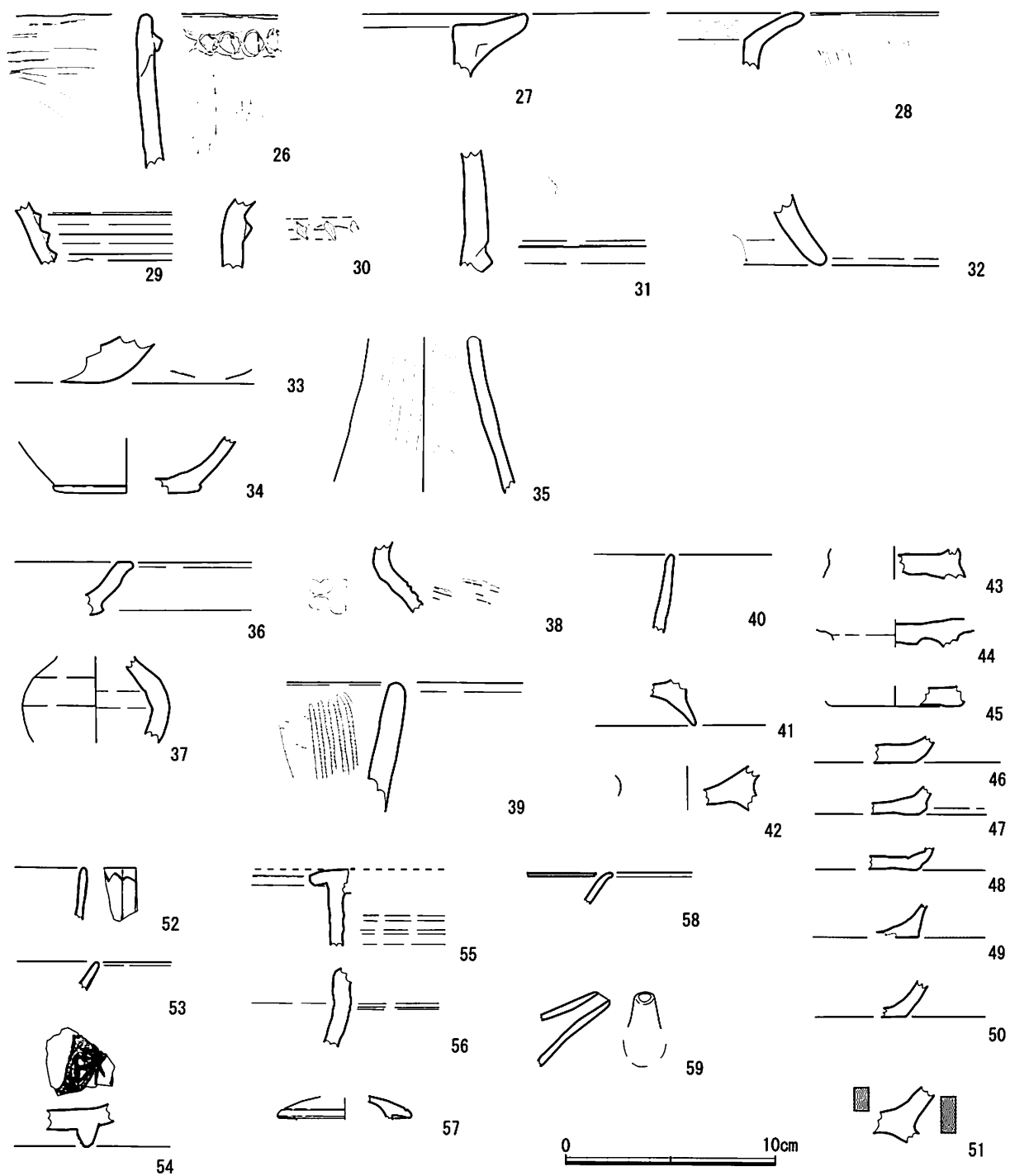
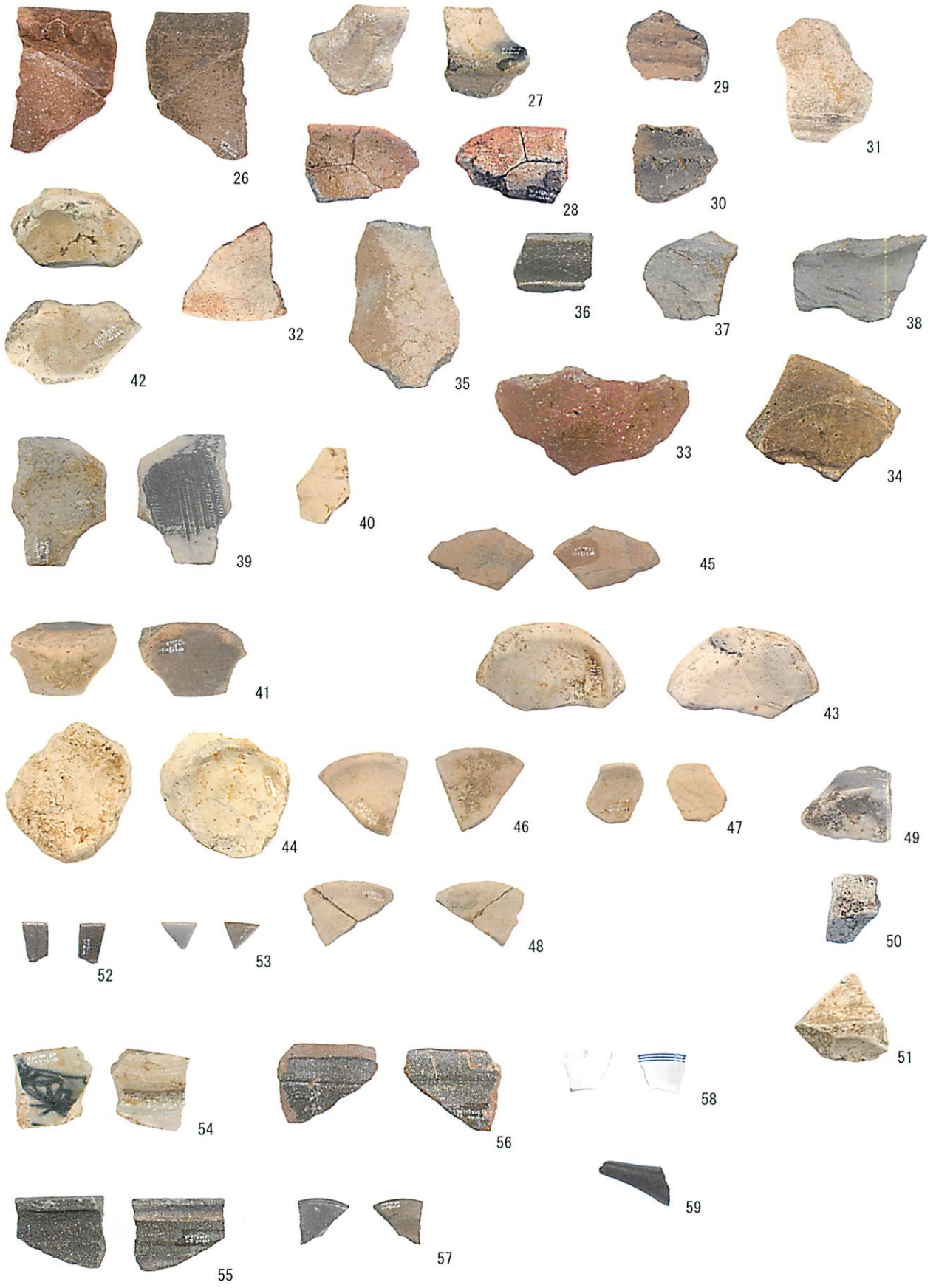


Fig. 18 4層出土遺物 S=1/3



PL. 15 4層出土遺物写真

Tab. 5 4層出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
26	4	縄文	深鉢	口縁部	外面・器内：5にぶい赤褐色5YR5/4、 内面：にぶい黄褐色10YR 5/4	粗砂：白色軽石、砂・細砂： 角閃石・石英、白色粒	10 p	外面：縦方向のケズリ状のナデの ちナデ、内面：条痕のちナデ、	刻み目一条突帯。
27	4	弥生	甕	口縁部	にぶい黄橙10YR7/2、内面屈曲部付 近：黒斑のため黒灰色	粗砂：赤色粒、砂・細砂：白 色粒、灰色粒、石英、黒色粒	5 p 弱	ヨコナデ	黒髪式系、断面に接合線 が認められる。
28	4	弥生	甕	口縁部	外面・内面：にぶい橙2.5Y6/4（赤色 顔料塗布か？）、内面一部：灰黄 2.5Y7/2・黒色	粗砂：石英、白色粒、砂・細 砂：石英、白色粒、角閃石	8 p	ハケのちナデ	弥生時代後期か？表面摩 滅。外面に、赤色顔料塗 布。
29	4	弥生	壺	胴部	外面：にぶい橙2.5Y6/4、内面・器 内：灰5Y6/1	礫：灰色粒、砂・細砂：白色 粒、石英、角閃石	1-5 p	外面：ヨコナデ、内面ハケ（-） のち丁寧なナデ、	弥生中期か？突帯は若干 粗雑。
30	4	古墳	甕	口縁部	外面：灰N6/、内面・器内：にぶい黄 橙10YR7/2	粗砂・細砂：石英、角閃石、軽 石	5 p	外面：ヨコナデ、内面：ナデ	東原式か？、外面に一条 の刻目突帯、刻目はヘラ 状の工具による施文。
31	4	古墳	甕	口縁部	外面・器内：にぶい黄橙10YR7/2、内 面：にぶい黄橙10YR7/2・一部にぶい 橙5YR6/4	粗砂：白色軽石、砂・細砂： 角閃石、石英・白色粒、黒色 粒	5 p	突帯付近：ヨコナデ、他：ナデ？	笹貫式。表面が若干摩 滅。突帯下面は粘土接合 部にて欠損。外面：若干 スス付着。
32	4	古墳	甕	脚部	外面・内面：灰白2.5Y8/2、器内：に ぶい橙7.5Y6/4	砂：白色粒、細砂：白色粒、 黒色粒、石英？	1-5 p	外面：ヨコナデ、内面：ナデ（/-）	
33	4	古墳？	壺	底部	外面：赤褐2.5Y5/4、内面：にぶい橙 5YR6/4、器内：外面・内面に同じ	粗砂：軽石、灰色粒、粗砂：軽 石粒、黒色粒、砂・細砂：白 色粒、黒色粒、石英	10P	外面：ハケ？のちナデ、底面：ナ デ、内面：ナデ？	少しふくらむ平底。
34	4	古墳	埴	底部	外面：鉄分付着のため不明、内面・ 器内：淡黄2.5Y8/3	細砂：白色粒	1	鉄分付着のため調整不明	表面に鉄分付着。底面の 形状は、緩やかにふくら む平底。
35	4	古墳？	高杯	脚部	外面：にぶい橙2.5YR7/4・7.5Y 5/4、内面・器内：灰色5Y5/1	礫：赤色粒、軽石粒、粗砂・ 砂・細砂：赤色粒、軽石粒、 石英 角閃石	5-10 p	外面：ハケ（-）のちナデ、内 面：ハケ（-）（/）のちナデ、	表面摩滅
36	4	須恵器	ハソウ？	口縁部	外面：褐灰10YR5/1、内面：褐灰 10YR5/1、器内：灰赤2.5YR6/2	礫：赤色粒、砂・細砂：白色 粒、黒色粒	1	回転ナデ、	
37	4	須恵器	ハソウ？	胴部	外面・器内：灰N6/、内面：灰5/	細砂：白色粒	1	回転ナデ、	
38	4	須恵器	甕？	肩部	外面・器内：灰N7/、内面：灰N6/	礫：白色粒、橙色粒、砂・細 砂：白色粒	2	胴部：タタキ、頸部：ヨコナデ、	
39	4	瓦器？	溜鉢	口縁部	外面：にぶい黄橙10YR7/2、内面：灰 N4/	砂・細砂：白色粒、黒色粒、 赤色粒、石英	2	外面：ナデ？、内面：ハケのち凹 線。	内面：縦方向の凹線5+α 条。外面非常に摩滅
40	4	土師器	杯	口縁部	浅黄橙10YR8/3	細砂：黒色粒、白色粒、赤色 粒	1	回転ナデ	
41	4	土師器	杯	底部	外面：明褐灰7.5Y7/2、高台内面：褐 灰7.5Y6/2、内面：灰N6/	細砂：赤色粒、白色粒	2	ナデ	表面摩滅
42	4	土師器	杯	底部	外面：浅黄橙10YR8/4、内面：浅黄橙 10YR8/3、器内：浅黄橙10YR8/3、	細砂：赤色粒、白色粒	2	回転ナデ	表面摩滅
43	4	土師器	碗	底部	外面：浅黄橙10YR8/4、内面：灰白 10YR8/2、器内：浅黄橙10YR8/3、高 台内面：浅黄橙10YR8/3	砂：赤色粒、黒色粒、細砂： 透明粒、黒色粒	1	外面：回転ナデ、内面：磨滅のた め不明瞭	底径：(6.2) cm
44	4	土師器	杯	底部	淡黄2.5Y 8/3	細砂：白色粒、黒色粒	2	外面・内面：回転ナデ、高台内 面：ナデ、	
45	4	土師器	杯	底部	にぶい橙7.5Y7/4	細砂：黒色粒	2	外面・内面：回転ナデ、底面：ナ デ	
46	4	土師器	杯	底部					
47	4	土師器	杯	底部	浅黄橙10YR6/3	細砂：黒色粒、白色粒、赤色 粒	1	摩滅のため不明	表面摩滅。
48	4	土師器	杯	底部	浅黄橙10YR6/3	細砂：黒色粒、白色粒、赤色 粒	1	外面・内面：回転ナデ？、底面： 糸切り、底面に粘土粒付着、	
49	4	土師器	皿	底部	外面：灰白10YR8/2、内面：にぶい黄 橙10YR8/3、器内：黄橙10YR7/6	砂：黒色粒、細砂：黒色粒、 透明粒、赤色粒	1	底面：糸切り痕	スス付着
50	4	土師器	皿	底部	外面：淡黄2.5Y8/3、内面：灰白 2.5Y8/2、器内：灰白2.5Y8/2、浅黄 橙7.5YR8/6	砂：黒色粒、赤色粒、細砂： 黒色粒、赤色粒	1	底面：糸切り痕	
51	4	土師器	杯	底部	外面・内面：7.5YR6/4				

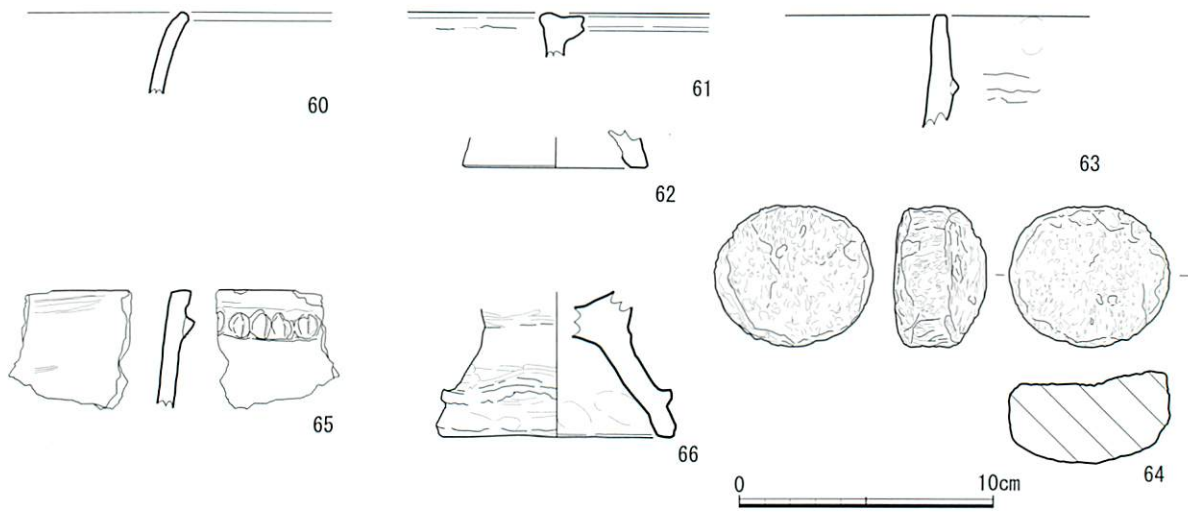
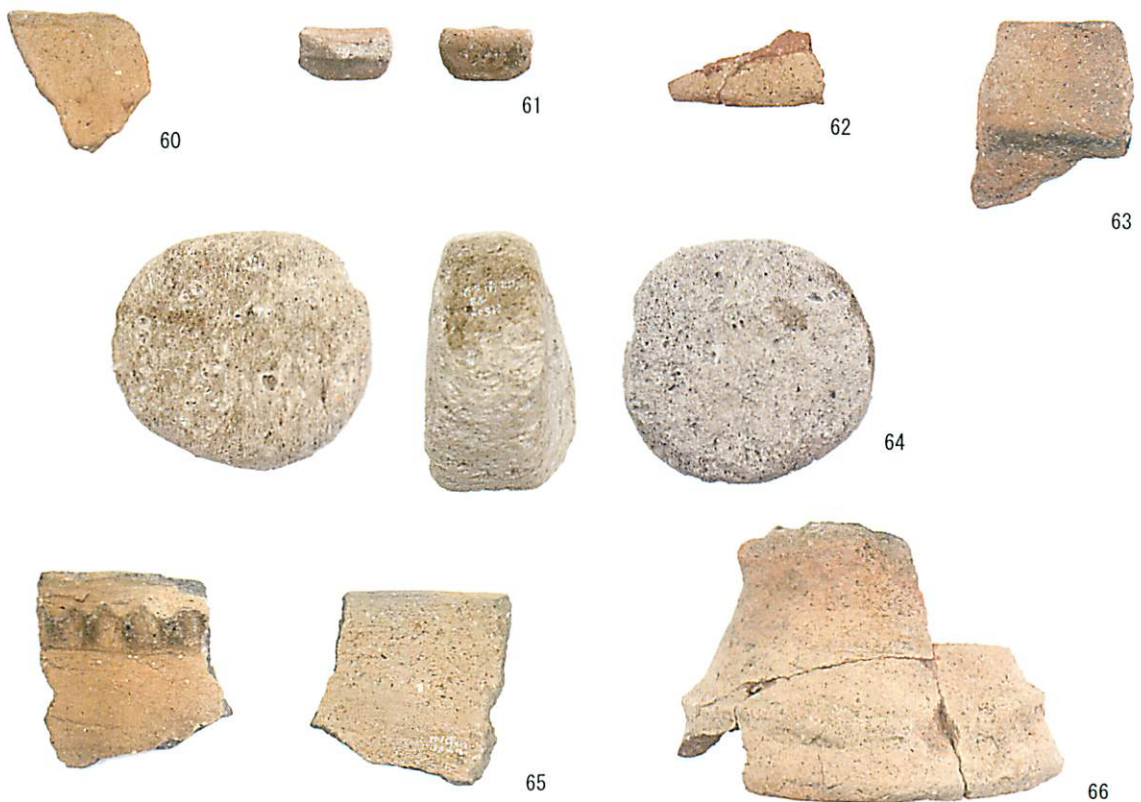


Fig. 19 5層～10層出土遺物 S=1/3



PL. 16 5層～10層出土遺物写真

Tab. 6 5～13層出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
60	5	古墳	甕	口縁部	外面：にぶい橙7.5YR7/4、内面：橙7.5YR7/6、器肉：褐灰7.5YR5/1	礫：白色粒、赤色粒、粗砂：白色粒、黒色粒、透明粒、砂・細砂：白色粒、黒色粒、透明粒、赤色粒	4	外面：ナデ（一）、内面：ナデ（一）	
61	8	弥生	甕	口縁部	外面：にぶい橙7.5YR7/4、内面：にぶい橙7.5YR7/4、器肉：灰白10YR8/1	礫：白色粒、粗砂：砂：白色粒、黒色粒、赤色粒、細砂：白色粒、黒色粒、赤色粒	3	外面：ヨコナデ（一）、内面：ヨコナデ（一）	入来口式、内面：粘土が盛り上がっている。
62	8	古墳?	甕	脚部	外面：にぶい黄橙10YR7/3、内面：橙7.5YR6/6、器肉：赤褐5YR4/6	粗砂：白色粒、透明粒、砂：白色粒、黒色粒、透明粒、赤色粒、細砂：白色粒、黒色粒、透明粒	3	外面：ナデ（?）、内面：ナデ（一）	内面：接合痕あり、底径：(7.3) cm
63	8	古墳	甕か鉢	口縁部	外面：にぶい橙7.5YR6/4、内面：橙5YR6/6、器肉：橙5YR6/6	粗砂：白色粒、黒色粒、砂：白色粒、黒色粒、透明粒、細砂：白色粒、黒色粒、透明粒	3	外面：ユビオサエ、ナデ（一）、内面：ヨコ方向ナデ（一）	三角突帯1条、突帯部分不明瞭である。
65	13	縄文	深鉢	口縁部	外面：にぶい橙7.5YR6/4、内面：にぶい黄橙10YR6/3、器肉：黄灰2.5Y4/1	粗砂：白色粒、砂：白色粒、黒色粒、細砂：白色粒、黒色粒	3	外面：ナデ（一）、内面：擦痕あり	外面：刻目突帯1条
66	13	古墳	甕	脚部	外面：浅黄橙10YR8/3、脚部内面：橙5YR6/6、底部内面：オリーブ黒5Y3/1、器肉：橙5YR6/6	礫：白色粒、粗砂：石英、白色粒、砂：石英、角閃石、白色粒、細砂：石英、白色粒、黒色粒	3	底部外面：粗いミガキ（一）、脚部外面：突帯より上方ミガキ（一）、接合部ユビオサエ、突帯上面接合部の粘土が明瞭、突帯下面粗いミガキ（一）、突帯より下方ミガキ（一）、底部内面：ナデ（一）、脚部内面：ナデ（一）	底径：(9.4) cm、脚部近くに一条突帯をめぐらす。
No.	層	種別	サイズ (cm)		重量 (g)				
64	8	軽石製品	6.2×5.5×3.0		25.6				

8 まとめ

本調査区で確認した遺構・遺物について、その状況から以下の3つのグループに分けることができる。

- 1) 5層上面以上の遺構・遺物
- 2) 5層以下、11層上面以上の遺構・遺物
- 3) 11層以下、15層上面までの遺構・遺物

1)では、3・4層に遺物が多く包含され、5層上面で遺構が確認できた。遺物は、縄文土器から近代陶磁器まで多時期にわたるが、いずれも小片で、特に土師器や土器は摩滅しているものが多い。これらの最下層にあたる5層上面検出遺構では遺物がほとんど出土しなかったが、埋土に4層土が混入することなどから、4層の時期とほぼ同時期と考えられ、4層出土遺物から近代のものであろうと考えられる。

2)は、遺物によって7層上面とそれ以下で分けることができる。7層上面までは中世以降の磁器や土師器も包含されているが、7層以下では、時期不明の土師器片が含まれるものの、古墳時代以前の遺物を包含し、明らかに中世以降の遺物であると判別できる遺物を含まない。しかし、7層上面遺構と9層上面遺構の様相は、SD2とSD3の方向や規模、ピットの多さや深さなど類似しており、ある程度連続した遺構であると考えられる。

プラント・オパール分析結果を見ると（本書付編）、2～9層まで連続してイネ・プラントオパールのピークがあり、稲作が推定されている。7・9層上面遺構も水田の水路と考えると矛盾がない。また、11層上面遺構のピット群はその性格は不明だが、ピット大きさや配置が9層上面検出ピットに類似する。この層でもイネ・プラントオパールのピークがみられ、稲作跡の可能性が指摘されている。10層は砂層で、河川氾濫による堆積物である可能性が高いことを考慮すると、11層の水田跡が河川氾濫による砂で埋没後、9層以上で再び水田による稲作が連続的に営まれたと推定することができる。ただし、プラント・オパール分析の結果から、10層までは低湿地である一方、8層より上層ではタケ類が現れ、水管理が行われた稲作であると推定されている。これは、11層上面の遺構と7層上面の遺構の性格が異なる可能性を示唆しており、11層上面遺構に溝状遺構が欠落していることと関連するかもしれない。

Tab. 7 各層の出土遺物数

層・遺構	陶器	磁器	土師器	瓦器	須恵器	古墳時代の土器	弥生土器	縄文土器	石器	鉄器	土器	計
1層												
2層	1	1	1								1	4
3層	3	4	5	1				1		2	33	49
4層	31	28	58		14	3	3	1		2	370	510
SK2		1	6								2	9
SK5			5								6	11
SK7											1	1
SK10											1	1
SK13		1									5	6
SK16											2	2
5層			1								3	4
6層			2								5	7
SD2		1										1
7層											10	10
8層						2	1		1	1	34	39
9層												0
10層												0
11層								1				1
SD6											1	1
12層											4	4
13層						2		1				3

663

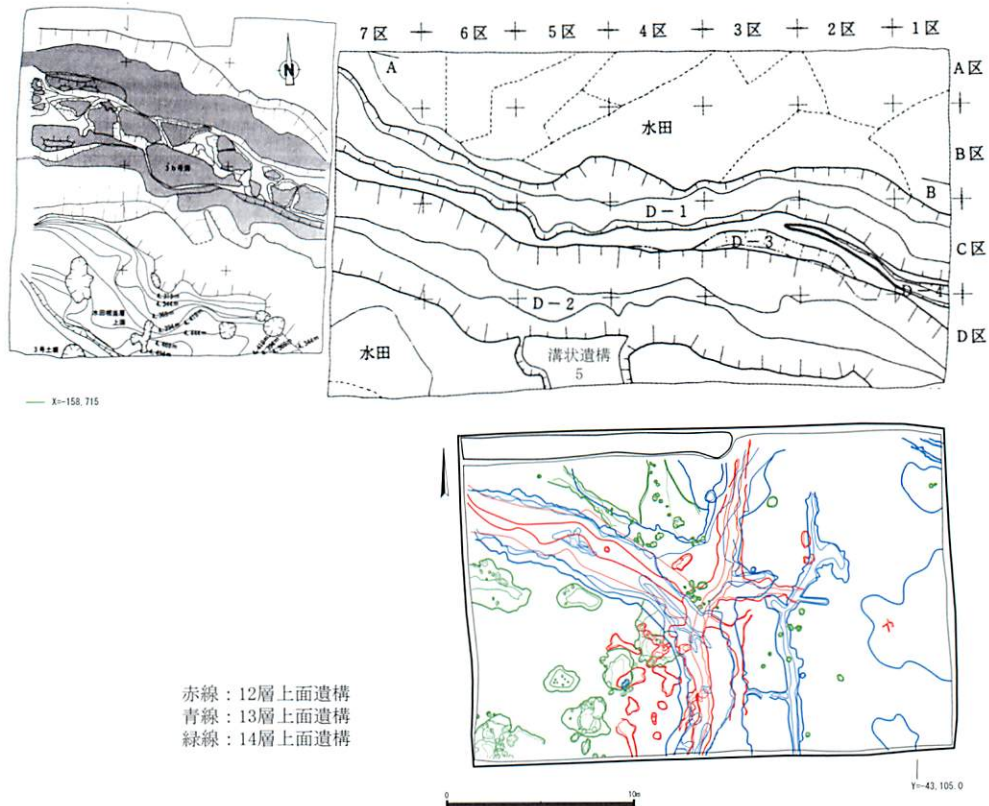


Fig. 20 12層以下の遺構と周辺の遺構 S=1/400

層位的には、昭和58年・62年の調査で確認された溝状遺構D-2と3a号溝が、本調査区7層上面検出遺構の時期に対応する。また、9層が昭和58年調査区の水田面と推定された9層と同一層で、整合性が認められる。

3)は、SD4・SD6を中心とした遺構群としてとらえることができる。これらの埋土は砂礫や細砂で、小河川もしくは水路であった可能性が高いと思われる。SD6の主流は西側から南側へ蛇行するラインであり、さらに中央部で分岐して北側にも伸びている。旧調査区では、東西方向に流れる大きな溝状遺構が確認されており、そこから水を引く水路であったと考えられる。SD6の東側にはそれと平行したSD5があり、東側の水田面に水を引いたと考えられる。また、SD6が埋没した後SD4が作られているが、そこからやはり東側に細い溝が分岐しており、12層上面遺構は13層上面遺構と類似した遺構の配置となっている。いずれの面も調査区東側の面がほぼ水平で、水田面であったと推定できる。

14層上面検出のSD6・7・8はその位置関係から、昭和58年調査で検出された溝状遺構5に続くものであると考えられる (Fig. 20)。ただし、溝状遺構5は溝状遺構D-2・3a号溝に切られており、出土遺物もなく、時期や全容が判然としない。

遺構の層位的な新旧関係を整理すると、新しい遺構から順に以下のように位置づけられる。

3b号溝 (昭和62年調査区) ・SD4→SD6→SD5→溝状遺構5 (昭和58年調査区) ・SD7・8

SD6と3b号溝は、若干SD6が小規模ながらほぼ平行しており、SD6の代わりに3b号溝が造られ、3b号溝から南側へ水を引いていたのがSD4であったと推定できる。また、溝状遺構5とSD7・8がそれより古い溝状遺構として位置づけることができる。時期については、SD6からは遺物は出土していないが、3b号溝では古代の土師器がある程度まとまっており、SD6も近い時期であろうと考えられる。溝状遺構5・SD7・8については、検出面直上の13層に古墳時代 (おそらく、笹貫式) の遺物が最新の遺物として包含されていることから、古墳時代後半期を下限と推定できよう。

なお、15層上面からは遺構は検出できなかったが、イネ・プラントオパールピークがあり、この面も水田面である可能性が指摘されている。

本調査区付近では河川跡が確認されており、本調査区はその氾濫原と考えられる砂層に少なくとも2回覆われている (10層・14層)。しかし、それぞれの上下の層で稲作の痕跡が認められることから、ある程度連続的に水田が営まれたことがわかる。

付編 鹿児島大学構内遺跡（郡元および桜ヶ丘）におけるプラント・オパール分析

宮崎大学 藤原宏志

1996年3月15日、鹿児島大学郡元団地および桜ヶ丘団地で採集した土壌試料に関するプラント・オパール分析結果について、次のとおり報告する。

1 分析試料

郡元団地：18 試料

桜ヶ丘団地：14 試料

2 分析方法

供試試料は宮崎大学農学部地域農学研究室でプラント・オパール定量分析法（ガラス・ビーズ法）により処理分析された。

3 分析結果

分析結果は別表および別図に示した。

4 分析結果の検討

1 郡元団地について

- 1) 2層から9層までは多量のイネが検出される。おそらく連続的に稲作が行われたものと思われる。10層ではイネが認められない。洪水などによる火山灰の2次堆積層であろう。11層でイネのピークが認められ、プラント・オパールの量から稲作跡と見られる。14層は火山灰の2次堆積層である。15層で、またイネのピークが認められ、ここにも稲作層が存在すると思われる。
- 2) 9層より下層ではヨシが多量に検出される。9層堆積以前は周辺にヨシの繁茂する低湿地が広がっていたのであろう。
- 3) 8層より上層ではヨシが消えタケ類が現れる。8層堆積以降は水管理が行われ、安定した稲作が行われたものと思われる。
- 4) 各層でキビ族プラント・オパールが散見される。ヒエがイネとともに生育していたものと思われる。とりわけ、15および16層で多量に検出されている。おそらく、イネとともに食用として利用されていたのであろう。

(2) 桜ヶ丘団地について

- 1) 3層（アカホヤ）より下層の6層ではキビ族のプラント・オパールが認められる。キビ族にはヒエ、アワなどのいわゆる雑穀類が包含されており、これらの土層堆積時に初期的な農耕があった可能性も考えられる。
- 2) 6層ではタケ類（ササ属）とともにウシクサ族（ススキなど）が検出される。広葉樹に由来するプラント・オパールも共伴しており、焼畑が行われていた可能性もある。

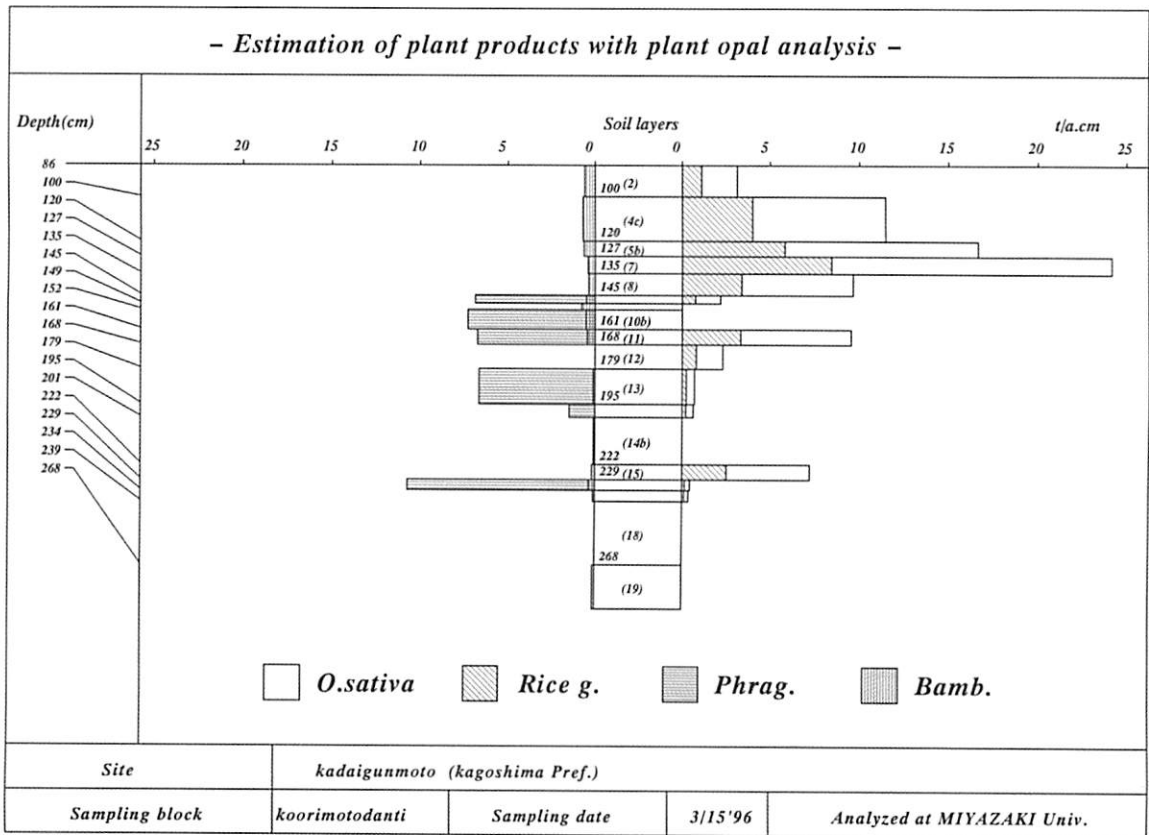
編集者より

この報告での、「郡元団地」が本報告書の鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区にあたる。「桜ヶ丘団地」は別地点の調査（未報告）における分析結果だが、いただいた報告をそのまま掲載した。

鹿大構内遺跡における
プラント・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 地域農学講座

層名	Sampling block [koorimotodanti]						
	Sampling date [3/15'96]						
	イネ (<i>O.sati.</i>)	イネ類 (<i>Rice g.</i>)	植物体乾重 (t/a.cm) キビ族 (<i>Pani.</i>)		ヨシ (<i>Phrag.</i>)	タケ亜科 (<i>Bamb.</i>)	ススキ (<i>Andoro.</i>)
2	3.147	1.102	2.612	1.186	0.000	0.617	0.531
4c	11.487	4.024	7.334	3.330	0.000	0.721	3.727
5b	16.658	5.836	13.167	5.979	0.000	0.648	2.342
7	24.171	8.468	14.329	6.507	0.000	0.423	2.185
8	9.671	3.388	13.377	6.074	0.000	0.351	1.813
9	2.193	0.768	9.099	4.132	6.892	0.477	0.617
10a	0.000	0.000	9.847	4.472	0.000	0.775	1.001
10b	0.000	0.000	0.000	0.000	7.317	0.507	2.619
11	9.554	3.347	3.965	1.800	6.756	0.468	2.015
12	2.311	0.810	0.000	0.000	0.000	0.000	0.650
13	0.710	0.249	0.000	0.000	6.695	0.116	5.391
14a	0.635	0.223	2.636	1.197	1.498	0.000	0.536
14b	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.084	0.000
15	7.249	2.539	11.569	5.253	0.000	0.182	0.470
16	0.457	0.160	30.334	13.775	10.769	0.373	2.120
17	0.372	0.130	0.000	0.000	0.000	0.121	0.314
18	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
19	0.000	0.000	6.867	3.118	0.000	0.135	0.000



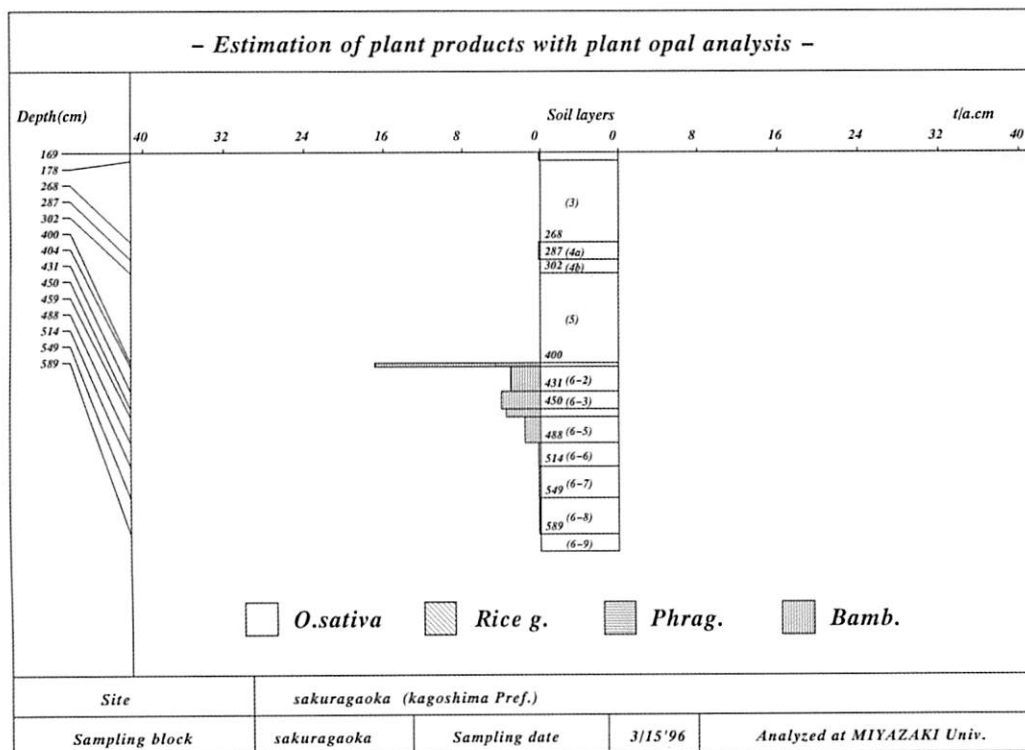
鹿大桜ヶ丘遺跡における
プラント・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 地域農学講座

Sampling block [sakuragaoka]

Sampling date [3/15'96]

層名	イネ		植物体乾重 (t / a . c m)		ヨシ (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ススキ (Andoro.)
	(O.sati.)	(Rice g.)	キビ族 (Pani.)	キビ族種実 (Pani.seed)			
2b	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.137	7.066
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.314
4a	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.177	3.193
4b	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	6.375
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.229
6-1	0.000	0.000	178.234	80.936	4.602	16.894	30.467
6-2	0.000	0.000	15.653	7.108	0.000	3.079	4.773
6-3	0.000	0.000	27.390	12.438	0.000	4.003	6.761
6-4	0.000	0.000	17.275	7.845	0.000	3.512	2.341
6-5	0.000	0.000	4.528	2.056	0.000	1.603	3.912
6-6	0.000	0.000	7.966	3.617	0.000	0.209	4.048
6-7	0.000	0.000	18.499	8.400	0.000	0.162	2.089
6-8	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.153	1.186
6-9	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.300



Summary

This is the report of the archaeological excavation in Area H-9 Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology from December 1993 to March 1994.

The center excavated the site of the Computing and Communications Center before its building an extension. Many artifacts were collected by the excavation. They include many kinds of sherds from the Jomon to the Kofun periods and also those of the medieval times. Stone implements were also found. The excavation revealed cultural remains and artifacts between the layer 2 and the layer 14. The cultural remains can be classified into three groups.

The first group consists of eleven pits and a ditch in the layer 5. The artifacts such as a bullet and ceramics found in the layer 5 showed that the cultural remains of the first group belong to the modern times.

The second group consists of narrow ditches and many pits. The cultural remains of the second group were found in the layers 7 and 9. Hajiki wares and the Chinese porcelain found in the second group showed they could be dated to the medieval times.

The third group consists of a wide ditch and narrow ones. The former branched out the latter. The cultural remains were found in the layers 11 to 14. The layer 13 can be dated to the Kofun period on the ground of the sherds of Sasanuki type pottery of the sixth century found in the same layer.

The phytolith analysis of the plant remains collected between the layers 2 and 9, and between the layers 11 and 14 confirmed that they cultivated rice. The ditches excavated in those layers were constructed to irrigate the rice fields.

In conclusion, the excavation revealed the rice paddy fields and the irrigation constructions and their systems such as ditches and waterways connected with a small river from the Kofun periods to the medieval times.

鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第2集

鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区

2006年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL 099-285-7270

印刷 渕上印刷株式会社

鹿児島市樋之口町6-6

TEL 099-225-2727
